

みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報

平成4年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART





千葉県立美術館外観

目 次

ごあいさつ	1
沿 革	2
美術館誌	3
事業一覧	4
展示事業	5
常設展	6
特別展	13
企画展	18
普及事業	24
教育普及	25
情報資料室	28
刊行物一覧	32
活動協力	33
調査・収集事業	35
収蔵資料	36
客員研究	39
管理運営	40
機 構	41
利用状況	43
展示室利用団体	44
施 設	48
関係法令等	52
平成5年度主要事業	53
平成5年度職員	54
利用案内	55

ごあいさつ

平成4年度の千葉県立美術館活動の実績を年報としてまとめました。

本館は、昭和49年の開館以来の運営方針であります“みる・かたる・つくる”を基本として、県民のさまざまな美術に対する要望にこたえるよう努めております。

4年度は、特別展として、20世紀初頭に独創的なスタイルで素朴な心情を表現したナイーフ美術の代表的な画家たちの作品展「アンリ・ルソーとナイーフ美術展」と、本県とのかかわりも深く、大正時代に一世を風靡した竹久夢二の芸術を紹介した「竹久夢二展」を開催しました。企画展としては、房総の美術家シリーズで大原町出身の洋画家に焦点を当てた「石井光楓展」を開催し、その業績を顕彰するとともに、全国的な公募展として、「第3回浅井忠記念賞展」を実施しました。

一方、本館が収蔵する作品の展示については、一層の充実、強化に努め、常設展を3期にわけて種々のテーマに基づき開催したほか、県内巡回展の移動美術館も2地域で実施しました。

また、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、特別展、企画展に関連づけて美術講演会を開催するとともに、美術の各分野にわたる実技講座を実施し、ますます高まっている県民の美術創作への意欲にこたえてまいりました。

さらに、本館が収蔵すべき作品の収集については、既に策定されている基本方針に基づき、作家や所蔵家の協力を得ながら、コレクションの体系化とその充実化を図りました。

今後とも、関係諸機関や各団体、並びに県民の皆様の御指導と御支援をお願いいたします。

平成5年4月

千葉県立美術館長

白石竹雄

沿 革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年2月に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟、更に同63年8月に増築工事の展示棟及び収蔵庫が完成した。

昭和44年12月9日 第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる（委員15名）
 昭和45年1月19日 県立美術館建設の請願書が2月県議会で採択される
 昭和45年7月24日 建設地として千葉公園に内定する
 昭和45年11月12日 第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる（委員10名）
 昭和46年3月31日 千葉公園内の美術館基本構想成る
 昭和46年6月24日 体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる
 代案として千葉市中央港埋立地が提示される
 昭和47年1月5日 建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する
 昭和47年3月31日 基本設計完了する（株式会社大高建築設計事務所）
 昭和47年7月31日 展示棟 第1期工事の実施設計完了する
 昭和47年9月21日 展示棟杭打工事着工
 昭和47年10月13日 展示棟建築工事請負契約議案可決される
 昭和47年12月10日 展示棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）
 昭和48年4月1日 文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる
 昭和48年11月30日 管理棟（第2期工事）の実施設計完了する
 昭和49年3月31日 展示棟竣工
 昭和49年4月1日 千葉県立美術館発足する（職員14名）
 昭和49年10月23日 開館記念式典を行う
 昭和49年10月24日 開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催 一般公開を始める
 昭和50年2月21日 管理棟杭打工事着工

昭和50年3月13日 管理棟建築工事請負契約議案可決される
 昭和50年3月16日 管理棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）
 昭和51年2月20日 管理棟竣工
 昭和51年3月2日 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する
 昭和51年6月7日 寄附によって、正面玄関に植栽を行う
 昭和52年3月12日 彫刻の屋外展示を始める
 昭和52年4月10日 展示棟の一室に美術普及室を開設する
 昭和53年1月18日 外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる
 昭和53年2月21日 美術普及棟の準備会が発足する
 昭和53年10月17日 美術普及棟建築予算が計上される
 昭和53年11月18日 浅井忠像 完成除幕式
 昭和53年11月30日 美術普及棟実施設計完了する
 昭和54年1月8日 美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する
 昭和54年3月5日 県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される
 昭和54年3月22日 県民アトリエ棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）
 昭和55年2月29日 県民アトリエ棟竣工
 昭和55年3月16日 県民アトリエ棟完成記念講演会
 昭和55年4月1日 千葉県美術品取得基金条例施行される
 昭和55年9月9日 県民アトリエ棟情報資料室を開設する
 昭和58年7月29日 美術普及コーナーを開設する
 昭和58年11月12日 開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する
 昭和61年3月25日 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化
 昭和61年4月10日 入口門扉4カ所設置
 昭和61年4月23日 美術館西側沿道寄りの生垣植栽
 昭和61年8月12日 講堂浸水防止工事
 昭和62年3月25日 機械室増築基本設計及び展示棟、収蔵庫、機械室増築工事実施設計完了する
 昭和62年10月15日 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）

昭和63年 5月20日 受水槽設備改修工事（地上式）着工
 昭和63年 8月31日 受水槽設備改修工事（地上式）完了する
 昭和63年 8月31日 展示棟，収蔵庫，機械室増築工事完了する
 平成元年 2月28日 増築展示棟周辺芝張り工事完了する
 平成元年 4月 1日 普及課が新設され，3課となる
 平成元年 4月20日 開館15周年記念特別展「房総と近代美術」を開催する
 平成元年 9月11日 空調機改修工事实施設計完了する
 平成 2年 6月 8日 空調機改修工事完了する
 平成 2年 9月29日 収蔵庫（第1，2室）冷凍機改修工事着工
 平成 2年11月 7日 案内標識改修工事着工
 平成 3年 1月31日 収蔵庫（第1，2室）冷凍機改修工事完了する
 平成 3年 2月20日 案内標識改修工事完了する
 平成 3年12月 6日 空調用ポンプ改修工事完了する
 平成 4年 4月 1日 管理の一部が（財）千葉県社会教育施設管理財団へ委託される
 平成 4年10月20日 温湿度記録装置改修工事完了する
 平成 4年12月18日 食堂改修工事完了する

平成4年度美術館誌

4月 1日 辞令交付
 常設収蔵作品展第Ⅰ期（6月21日まで）
 5月16日 特別展「アンリ・ルソーとナイフ美術展」（6月21日まで）
 21日 フランス人画家ヤンケル氏，他2名来館
 22日 日本画講座（6月4日まで 日数12日）
 23日 第1回美術講演会
 6月11日 版画講座（6月25日まで 日数12日）
 13日 第2回美術講演会
 27日 常設収蔵作品展第Ⅱ期（1月10日まで）
 7月 1日 陶芸講座1（7月30日まで 日数9日）
 2日 洋画講座1（7月12日まで 日数10日）
 23日 洋画講座2（8月9日まで 日数10日）
 27日 博物館実習（8月1日まで）8月4日 彫刻講座（8月21日まで 日数12日）
 7日 個別ビデオライブラリー設置
 9月 1日 陶芸講座2（9月30日まで 日数9日）
 5日 特別展「竹久夢二展」（10月11日まで）
 12日 第3回美術講演会
 19日 「夢二の詩」コンサート
 22日 開館以来入館者総数300万人突破
 11月12日 企画展「第16回千葉県移動美術館」（大原町文化センター，11月25日まで）
 13日 企画展「第3回浅井忠記念賞展」公募作品搬入（11月15日まで）
 21日 企画展「石井光楓展」（12月24日まで）
 27日 企画展「第3回浅井忠記念賞展」審査会
 28日 第4回美術講演会
 企画展「第16回千葉県移動美術館」（大栄町コミュニティプラザホール，12月10日まで）
 12月 3日 書芸講座（12月5日まで 日数3日）
 14日 企画展「第3回浅井忠記念賞展」入選者発表
 1月15日 企画展「第3回浅井忠記念賞展」授賞式・オープニングレセプション
 16日 企画展「第3回浅井忠記念賞展」（2月21日まで）
 22日 金工講座（2月4日まで 日数12日）
 23日 第5回美術講演会
 2月27日 常設収蔵作品展第Ⅲ期（3月28日まで）

事業一覧

月	み	る	か	た	る	つ	く	る
4	常設収蔵作品展（第Ⅰ期）	4/1～6/21						
5	特別展「アンリ・ルソーとナイーフ美術展」 5/16～6/21		第1回美術講演会	5/23		日本画講座 5/22～6/4（日数12日） ②洋画入門講座1 5/26～31（日数6日）		
6	常設収蔵作品展（第Ⅱ期）	6/27～1/10	第2回美術講演会	6/13		②洋画入門講座2 6/6～21（日数6日） 版画講座 6/11～25（日数12日） ②洋画入門講座3 6/23～28（日数6日）		
7						陶芸講座1 7/1～30（日数9日） 洋画講座1 7/2～12（日数10日） 洋画講座2 7/23～8/9（日数10日）		
8						彫刻講座 8/4～21（日数12日） ②洋画入門講座4 8/18～23（日数6日）		
9	特別展「竹久夢二展」	9/5～10/11	第3回美術講演会 「夢二の詩」コンサート	9/12 9/19		陶芸講座2 9/1～30（日数9日） ②洋画入門講座5 9/8～13（日数6日） ②デッサン入門講座1 9/22～25（日数4日）		
11	企画展「第16回千葉県移動美術館」 （大原町） 11/12～25 企画展「石井光楓展」 11/21～12/24 企画展「第16回千葉県移動美術館」 （大栄町） 11/28～12/10		第4回美術講演会	11/28		②日本画入門講座 11/17～22（日数6日）		
12						書芸講座 12/3～5（日数3日）		
1	企画展「第3回浅井忠記念賞展」 1/16～2/21		第5回美術講演会	1/23		②デッサン入門講座2 1/19～22（日数4日） 金工講座 1/22～2/4（日数12日）		
2	常設収蔵作品展（第Ⅲ期）	2/27～3/28				②洋画入門講座6 2/9～14（日数6日）		

※ ②は友の会主催講座
美術団体展は、P44に掲載。

展 示 事 業

常設収蔵作品展を3期に分けて開催した。全期を通して、常時のテーマに「房総と近代美術」を設けた。また、これに加えて随時のテーマとして、作家、材質・技法、モチーフ及び新収蔵品の区分を設けて、本館収蔵の優品及び研究資料を公開した。

特別展としては、「アンリ・ルソーとナイーフ美術展」「竹久夢二展」を開催した。

企画展としては、「房総の美術家シリーズ22－石井光楓展」「第3回浅井忠記念賞展」を開催したほか、「第16回千葉県移動美術館」を大原町文化センターと大栄町コミュニティプラザホールにおいて開催した。

常 設 展

常 設 収蔵作品展（第Ⅰ期）

常設収蔵作品展第Ⅰ期は、2つの区分に分けて展示した。「新収蔵作品」では、平成3年度あらたに収蔵した作品を前期のみ展示した。「房総と近代美術」では本館の代表的な作品や、日頃から鑑賞の要望の高い作品を前期・後期に分けて紹介した。

会 期	（前期）平成4年4月1日（水）～ 5月10日（日）	36日間
	（後期）平成4年5月16日（土）～ 6月21日（日）	33日間
展示点数	（前期）96点	
	（後期）20点	
入場者数	43,518人	

出 品 目 録

「新収蔵作品」

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
<日本画>				○11	デュブレ	森 の は ず れ	1860頃
1	石井林 響	桃 源	1913	○12	"	嵐 の 前	
2	"	ね ず み	1929	○13	フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860
3	山口豊 専	千 葉 の 男		○14	ルノワール	少 女 像	1816～18
4	"	海 女		<版画>			
5	"	蟹		1	牛玖健 治	天 使 E	1985
6	"	村 祭		2	遠藤健 郎	市 役 所 物 語	1991
7	"	山 図		<工芸>			
8	若木 山	鏡	1957	1	香取秀 真	銅製おしどり型香合	
9	"	洌	1961	2	"	銅製猪型水差し	
10	"	澗	1962	3	"	銅製茶托	
11	"	湧 水	1964	4	"	銅製魚文筆置	
12	"	潜	1966	5	"	銅製蟹型筆置	
13	"	山 峡 の 春	1967	6	"	銅製鰐口	
14	"	わ だ つ み	1968	7	"	銅製鼎	
<洋画>				8	"	鶴 文 鉄 釜	
1	安藤信 哉	花 束	1970	9	津田永 寿	雪 の 朝	1989
2	"	静 物	1977	○10	津田信 夫	少 師 好 生	1934
3	"	"	1980頃	11	"	蛙	"
4	石井柏 亭	裏 磐 梯 の 秋	1952	12	"	灰 皿	"
5	伊牟田經正	悲 劇	1977	13	"	雷 吼 一 聲	1935
6	大崎善 生	溪 流	1988	14	"	猿	1937
7	"	初 秋 水 郷	1989	15	"	羊	1938
8	鹿子木孟郎	風 景		16	"	蛇	"
9	"	裸 女 と 野 花		17	"	彌 勒 菩 薩	1937～38
10	真野紀太郎	バ ラ	1939～40				

「房総と近代美術」

No.	作家名	作品名	制作年
○18	宮之原 謙	釉嵌十字星結晶花挿	1932
19	"	鉄茶釉鱗文花瓶	1968頃
20	"	香 炉	
○21	"	象嵌磁盛上花蝶鉢	
22	"	天目釉草花文壺	
23	"	天目釉蓮蕾彫文壺	
24	"	白磁四方百合象嵌大皿	
25	"	鉄釉牡丹唐草彫文壺	
26	"	牡丹文盛上水指	
○27	"	盛上磁葡萄唐草壺	
28	"	白掛刻文茶碗	
29	"	"	
30	"	白 釉 茶 碗	
31	"	窯 変 釉 茶 碗	
32	"	"	
33	山本正年	黎 明	1953

<書>

1	宇津木雀聲	凝 神 著 書	1989
2	香取秀真	高 杯 の 歌	1946
3	"	父 母 を 思 う 歌	1948
4	"	般若波羅密多心經写経	1949
5	"	鎌 倉 の 歌	1950
6	"	新年同詠林應制歌	1954
7	"	林 の 歌	"
8	"	如 月 之 ……	
9	"	新 万 葉 集 所 載	
10	高橋蒼峰	破 戒	1980
11	"	鳴 瑟	1982

○印のあるものは、後期も展示

<日本画>

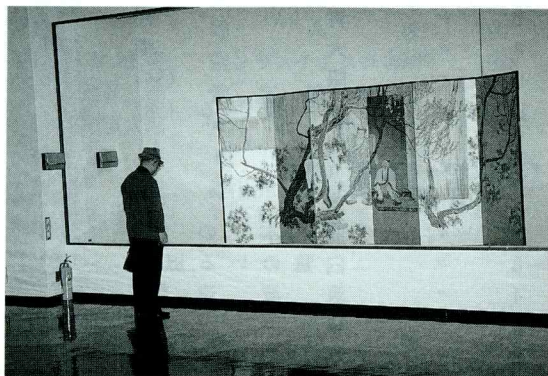
No.	作家名	作品名	制作年
● 1	石井林 響	魚 樵	1913頃
2	富取風堂	漁 村 の 初 夏	1942
3	"	暮 色	1962
△ 4	東山魁夷	門	1952
● 5	"	春 雪	1973
● 6	"	秋 深	1975

<洋画>

△ 1	クールベ	眠 る 人	1853
● 2	"	雪 の 中 の 小 鹿	1869頃
3	コラン	田 園 詩	1903
● 4	コロロー	フォンテンブローの風景	1830~35
5	"	ナポリ近郊の思い出	1860~65
● 6	ディアズ	森 の 中 の 農 婦	1868
● 7	トロワイヨン	河 辺 の 道	1860~65
● 8	フォンタネージ	牛 を 追 う 農 婦	1862頃
● 9	"	川 辺 の 二 頭 の 牛	
● 10	ミレー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃
● 11	ルソー	バルビゾン農場 カルカッソンの 幽閉者の解放	
12	ローランス		
△ 13	浅井 忠	薬 屋 根	1887頃
● 14	"	フォンテンブローの夕景	1901
● 15	"	農 婦	1902
● 16	石井柏亭	晩 春 行 楽 図	1938
△ 17	"	信 州 風 景	1948
18	梅原龍三郎	伊 豆 大 仁 風 景	1929
19	"	皇 居	1980
20	安井曾太郎	熱 海 附 近	1929

●印のあるものは、前期のみ展示

△印のあるものは、後期のみ展示



常設 収蔵作品展（第Ⅱ期）

常設収蔵作品展第Ⅱ期は、3つの区分に分けて展示した。「樹の表現」では、私達に身近な「樹」をモチーフにした作品に焦点をあて、日本画、洋画、版画の各ジャンルの作家により描かれた様々な樹の表現を、「石橋武治・原勝郎」では、近代の洋画界で活躍した千葉県ゆかりの2人の作家に焦点をあて、それぞれの独自の世界を、「房総と近代美術」では、本館の代表的な作品や、日頃から鑑賞の要望の高い作品を、会期を前期・中期・後期に分けて紹介した。

会 期	(前期)	平成4年6月27日(土)～8月30日(日)	56日間
	(中期)	平成4年9月5日(土)～10月11日(日)	32日間
	(後期)	平成4年11月26日(土)～平成5年1月10日(日)	31日間
展示点数	(前期)	101点	
	(中期)	15点	
	(後期)	21点	
入場者数		116,144人	

出 品 目 録

「樹の表現」(前期)

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
<日本画>				18	都鳥英喜	八瀬の秋	1929
1	浅井 忠	松	1892	19	"	洛北の早春	1934
2	石井林響	夜道を駆ける人		20	"	村の道	1942
3	"	老松白鷺之図		21	中西利雄	南仏風景	1930
4	後藤純男	山門雨後	1974	22	長谷川良雄	下鴨	1915頃
5	酒井亜人	樹	1955	23	不破 章	ルッセルスハイム	1974
6	鈴木月潭	茂・残雪	1970頃	24	"	御苑	"
7	関 主税	晨	1984	25	間部時雄	寒林	
8	田岡春径	溪谷	1969	26	溝口七生	高原の樹々	1975
9	富取風堂	山桜と民家		27	安井曾太郎	熱海附近	1929
10	若木 山	島ノ椿	1963	28	和田 清	秋きたる梓川	1949
11	"	早春	1969				

<洋画>

1	浅井 真	林	1942～43
2	"	新緑の雑木林	1963
3	"	晩秋	1971
4	足立源一郎	下加茂森	1907
5	大久保作次郎	庭の木陰	1916
6	"	丘上の鐘楼	
7	岸畑久吉	神社	1913
8	小堀 進	冬晴の果樹園	1936
9	"	高原	1951
10	"	ロンドンの朝	1964
11	小柳吉次	叢	1984
12	櫻田精一	冬の並木道	1965
13	田中善之助	出町	1906
14	鶴田吾郎	千川堤の桜	1912
15	"	鷹の巣の雪山	1954
16	"	谷川岳	1959
17	"	木をつくる	

<版画>

1	東山魁夷	冬	樹	1979
2	"	湖	岸	"
3	"	冬	華	"
4	"	樹	氷	"
5	星 襄一	夜	明	1975
6	"	王	の	1976
7	"	青	い	1977
8	"	大	樹	1977
9	"	陽	(林)	1978
10	"	枝	繁る(赤)	"

「石橋武治・原勝郎」(前期)

1	石橋武治	火	口	1951
2	"	並	木の道	1952
3	"	白鷺	のいる風景	1953
4	"	筑波	遠望	"
5	"	早	春	1954
6	"	水	辺	1956

No.	作家名	作 品 名	制作年
7	石橋武治	少 年	1965
8	"	水 辺	1966
9	"	水 辺 初 夏	
10	"	水 郷	
11	"	細 道	
12	"	窓 辺 の 少 女	
13	原 勝郎	街 灯 の ある 風 景	1930
14	"	モ ン マ ル ト ル	1935
15	"	コ ー ヒ ー ひ き	1949
16	"	森 (A)	1955
17	"	森	"
18	"	森 (C)	"
19	"	京 橋	"
20	"	樹	"
21	"	デ ッ サ ン (C)	
22	"	" (D)	
23	"	" (K)	
24	"	" (L)	
25	"	" (M)	
26	"	" (O)	

「房総と近代美術」(前期)

<日本画>

1	石井林響	魚 樵	1913頃
2	"	桃 源	1913
3	富取風堂	初 夏	1972
4	"	き び と 茄 子	

<洋画>

1	コ ロ ー	フォンテンブローの風景	1830~35
2	ジャック	森 の 中	
3	デュブレ	森 の は ず れ	1860頃
4	"	嵐 の 前	
5	トロワイヨン	河 辺 の 道	1860~65
6	フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860
7	"	牛 を 追 う 農 婦	1862頃
8	ミ レ ー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃
9	ルノワール	少 女 像	1816~18
10	浅井忠	薬 屋 根	1887頃
11	"	婦 人 像	1907
12	石井柏亭	聖フランチェスコ寺院	1923
13	梅原龍三郎	竹 窓 読 書 図	1937
14	黒田重太郎	女 と 小 犬	1928
15	小堀進	セ ー ヌ 川	1973
16	椿 貞雄	鋸山から見た房総半島	1948
17	中西利雄	トリエール・セヌ	1930

<版画>

1	浜口陽三	26 の さ く ら ん ぼ	1971
2	"	赤 い 鉢	"
3	"	毛 糸	1978

No.	作家名	作 品 名	制作年
<彫刻>			
1	高村光太郎	裸 婦 座 像	1916頃
2	"	手	1918
3	"	大 倉 喜 八 郎 の 首	1926

<工芸>

1	香取秀真	霊 獣 文 大 花 瓶	
2	"	筋 入 花 瓶	
3	"	笑 獅 子 香 炉	
4	津田信夫	海	1927
5	"	雷 吼 一 聲	1935
6	"	鳳 翔 薰 炉	1937
7	宮之原謙	釉 嵌 十 字 星 結 晶 花 挿	1932
8	"	牡 丹 文 盛 上 水 指	
9	"	盛 上 磁 葡 萄 唐 草 壺	

「房総と近代美術」(中期・後期)

<日本画>

● 1	富取風堂	初 秋	1955
● 2	"	麦 秋	1971

<洋画>

□ 1	クールベ	眠 る 人	1853
2	"	雪 の 中 の 小 鹿	1869頃
□ 3	コ ロ ー	フォンテンブローの風景	1830~35
□ 4	"	ナポリ近郊の思い出	1860~65
□ 5	ジャック	森 の 中	
□ 6	ディアズ	森 の 中 の 農 婦	1868
7	デュブレ	森 の は ず れ	1860頃
8	"	嵐 の 前	
□ 9	ドービニー	ヴァルモンドワの小川	1847
10	トロワイヨン	河 辺 の 道	1860~65
11	フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860
12	"	牛 を 追 う 農 婦	1862頃
13	ミ レ ー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃
□ 14	ル ソ ー	バルビゾン農場	
15	ルノワール	少 女 像	1816~18
□ 16	ローランス	カルカッソンの幽閉者の解放	
□ 17	浅井忠	薬 屋 根	1887頃
● 18	"	婦 人 像	1907
● 19	石井柏亭	聖フランチェスコ寺院	1923
20	"	信 州 風 景	1948
□ 21	梅原龍三郎	伊 豆 大 仁 風 景	1929
● 22	"	竹 窓 読 書 図	1937
23	黒田重太郎	女 と 小 犬	1928
□ 24	安井曾太郎	熱 海 附 近	1929

● 中期のみ展示

□ 後期のみ展示

印のないものは中期・後期共展示

常設 収蔵作品展（第Ⅲ期）

常設収蔵作品展第Ⅲ期は、3つの区分に分けて展示した。「浅井忠とその周辺作家たち」では、洋画はもとより、日本画、陶芸など、幅広い浅井の制作活動を時代を追って展示し、さらにフォンタネージなど、浅井と交流のあった作家たちの作品を紹介した。「房総と近代美術」では、近・現代美術の発展に尽力した房総ゆかりの作家の作品及び「版画」の世界に焦点をあてた展示を行った。

会 期 平成5年2月27日（土）～3月28日（日） 26日間
 展示点数 126点
 入場者数 12,755人

出 品 目 録

「浅井忠とその周辺作家たち」

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
＜日本画＞				19	浅井 忠	男 性 裸 像	1901
1	浅井 忠	田 植 の 図	1889	20	〃	フォンテンブローの森	〃
2	〃	松	1892	21	〃	フォンテンブローの夕景	1901頃
3	〃	梅	〃	22	〃	農 婦	1902
4	〃	琵琶法師	1890～97	23	〃	農 家	1902
5	〃	狂女（付、子規句）	1898頃	24	〃	パ リ 公 園	1900～02
6	〃	古城（ 〃 ）	〃	25	〃	京都高等工芸学校の庭	1903
7	〃	人物風俗図	1902～07	26	〃	奈 良 郊 外	〃
8	〃	盗 賊	〃	27	〃	中 沢 岩 太 像	〃
9	〃	貼 交 屏 風	〃	28	〃	欧 州 市 場 風 俗	1903頃
10	黒沼槐山	花 鳥 図		29	〃	老 母 像	1906
＜洋画＞				30	〃	婦 人 像	1907
1	クールベ	雪 の 中 の 小 鹿	1869頃	31	〃	大 原 女	1902～07
2	コロロー	フォンテンブローの風景	1830～35	32	〃	花	〃
3	トロワイヨン	河 辺 の 道	1860～65	33	足立源一郎	下 加 茂 森	1907
4	フォンタネージ	川 辺 の 二 頭 の 牛		34	〃	カ ー ニ ュ に て	1912～25
5	〃	森の空地の農婦		35	石井柏亭	病 児	1904
6	〃	牛を追う農婦	1862頃	36	〃	冬 の 朝（行徳）	1909
7	ミレー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃	37	石川欽一郎	赤 城 淡 煙	
8	ルソー	バルビゾンの農場		38	伊藤快彦	林 檜	
9	浅井 忠	少 女	1877	39	梅原龍三郎	竹 窓 読 書 図	1937
10	〃	女 の 顔（模写）	1876～78	40	小笠原豊涯	中 井 八 重 子 像	1897
11	〃	鍛 冶 橋	1878頃	41	小川千甕	港	
12	〃	溪 流	1884	42	加藤源之助	秋の山（大和初瀬村）	1908
13	〃	沢 入 駅	〃	43	鹿子木孟郎	風 景	
14	〃	曳 舟 通 り	1885	44	国松桂溪	仏 国 ト ル ド ン ヌ	1923頃
15	〃	藁 屋 根	1887頃	45	黒田重太郎	浴 後	1927
16	〃	平壤大同江煉光亭	1894	46	榊原一広	収 穫	1918
17	〃	金州城壁上	1894～95	47	桜井忠剛	バ ラ	
18	〃	金州城南門外	〃	48	澤部清五郎	桜	
				49	霜鳥之彦	ロ シ ア の 女	1923

No.	作家名	作品名	制作年
50	田中志奈子	デッサン(大原女)	1905
51	田中善之助	高台寺	1906
52	"	聖護院の裏	1907頃
53	都鳥英喜	男の顔	1908
54	中林 儼	山中湖附近	
55	長谷川良雄	高等工芸学校西裏通り	1907
56	牧野克次・	松林	
57	間部時雄	田中の牧場	
58	松岡 寿	森と小川	1895
59	安井曾太郎	デッサン(裸婦)	1907
60	"	熱海附近	1929

<彫刻>

1	浅井 忠	農婦像	1902~07
2	"	羅漢像	"

<工芸>

1	浅井 忠	絵皿(鳳凰)	1901
2	"	茶器「猿蟹合戦ノ図」	"
3	"	向付皿・揚子挿	"

<資料>

1	浅井 忠	槐庭画帖	1864~69頃
2	"	槐庭時代綴	"
3	"	A pictorial Museum of Japanese Manners and Customs	1884
4	"	従征画稿	1895
5	"	自筆絵葉書6枚	1903頃
6	"	花木(図案)	1902~07
7	"	溪流(")	"
8	"	戸棚図(")	"
9	"	春日野花瓶(")	"
10	"	花瓶(")	"
11	"	投影画法	
12	"	スケッチブック6冊	
13	黒沼槐山	絵手本	1864~69頃
14	塚本 靖	グレーの古城址	1901
15	"	グレー風景	"
16	"	ロワン湖畔	"
17	和田英作	塚本靖肖像	"
18	"	塚本靖宛絵葉書	"
19	"	絵葉書(富士図)	
20	"	"(少女図)	

「房総と近代美術」

<日本画>

1	石井林響	蓬来仙境之図	1927
---	------	--------	------

No.	作家名	作品名	制作年
2	石井林響	春 秋	
3	"	梅 花 小 禽	
4	"	雨 後 浮 船	
5	酒井亜人	垣 根	1950
6	"	晩 秋	1952
7	田岡春径	竹 林	
8	"	風 景	
9	富取風堂	仔 馬	1949
10	"	雨 の 花	1963
11	"	群 魚	1967
12	"	う す れ 陽	1975
13	若木 山	潭	1965
14	"	早 春	1969

<洋画>

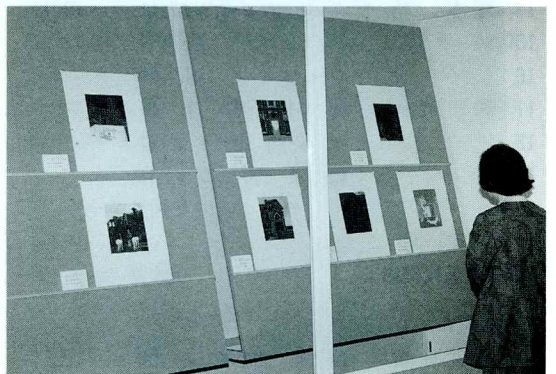
1	石橋武治	並木の道	1952
2	"	水 郷	
3	"	白鷺のいる風景	1953
4	小堀 進	漁 村	1937
5	"	南 欧 の 丘	1962
6	"	雨後の山(信州)	1964
7	"	花 と 海	1974
8	"	逆 光	"
9	笹岡了一	放蕩息子の帰宅	1960
10	"	孟 母 の 家	1973
11	"	天使とヤコブの戦い	1975
12	椿 貞雄	岩	1936
13	"	鋸山から見た房総半島	1948
14	"	犬 吠 埼	"

<版画>

1	池田満寿夫	中 間	1967
2	"	ハートの位置	1968
3	"	ウエルカムB	1969
4	"	午 後	"
5	"	マーガレットの庭	1970
6	"	遙かなる通り	"
7	"	スフィンクス	"
8	"	夜 の 旅	"
9	"	「トラベラーズ・ジョイ」 アウグストスに寄せて	1973
10	"	「トラベラーズ・ジョイ」 くずれた土	"
11	"	「トラベラーズ・ジョイ」 蒼白なる真珠色	"
12	"	「トラベラーズ・ジョイ」 枯れたすげ	"
13	"	「トラベラーズ・ジョイ」 メラグレーナ	"

No.	作家名	作品名	制作年
14	池田満寿夫	「トラベラーズ・ジョイ」 春 雷	1973
15	"	「トラベラーズ・ジョイ」 抛 物 線	"
16	"	「トラベラーズ・ジョイ」 胚種（または木の芽時）	"
17	"	「トラベラーズ・ジョイ」 花をつけた灯心草	"
18	"	白 い 誘 惑	1977
19	池田良二	Martin	1979
20	"	Scattered Seeds	"
21	"	Together again	"
22	"	Lack	1980
23	"	Tristeza	"
24	"	Leaves	"
25	"	Varanasi	"
26	"	Nobody Knows my mind	1981
27	牛玖健治	作 品 発 芽	1957
28	"	2 人	1966頃
29	"	作 品 発 芽	1978
30	"	作 品 鏡	1980
31	"	作 品 発 祥	1981
32	"	ゆ う え ん ち	1983
33	"	天 使 E	1985

No.	作家名	作品名	制作年
34	瑛 九	楽 園	1951
35	"	愛 の 家	"
36	"	道	1952
37	"	鳥	"
38	"	指	"
39	"	ヴァイオリン	"
40	"	散 歩 A	"
41	"	少 女	1953
42	"	庭 園	"
43	"	「銅版画集4『サーカス』」 か ぎ	"
44	"	「銅版画集4『サーカス』」 よ ろ こ び B	"
45	"	「銅版画集4『サーカス』」 家 族 B	1954
46	"	「銅版画集4『サーカス』」 愛 の よ ろ こ び	"
47	"	「銅版画集4『サーカス』」 ド ン フ ァ ン	"
48	"	「銅版画集4『サーカス』」 風	"
49	"	「銅版画集4『サーカス』」 サ ー カ ス	1955
50	"	「銅版画集4『サーカス』」 シ グ ナ ル B	"
51	"	「銅版画集4『サーカス』」 い た ず ら	1956



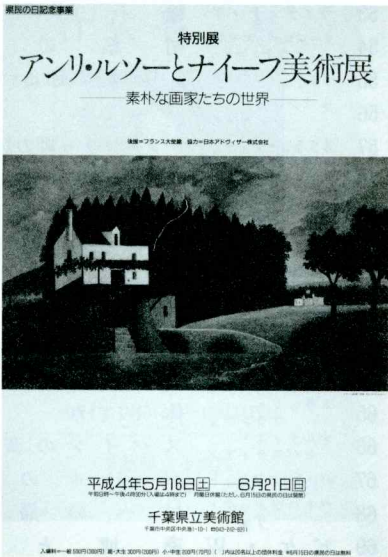
特 別 展

アンリ・ルソーとナイーフ美術展

会 期 平成4年5月16日(土)～6月21日(日)
展示点数 107点
入場者数 12,362人

ナイーフ(素朴派)美術は、20世紀初頭にアンリ・ルソーが登場し、独創的なスタイルで素朴な心情を表現した作品が高い評価を得てから、近代美術における一領域として注目を浴びるようになった。ナイーフ美術の画家たちは、ほとんど独学で、その作品は自己流の様式だが、反面、伝統にとらわれない豊かな感受性と自由な発想による表現が新鮮な世界を生み出して、あたかも原始美術や民族美術に通じるような内容を漂わせている。

本展では、ナイーフ美術の代表的な画家たちの作品を紹介し、その世界を探った。



出 品 目 録

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
1	アレクサンドリン・ケルダール	私の少女時代	1965	27	デスノス・フェルディナンド	赤い傘の下の猫	1928
2	オーギュスティーヌ・リュット	夢	1978	28	〃	トゥールのレダ	1950頃
3	バグール・ミゲル・リヴェラ	交 差 点	1961	29	〃	遺 言	1950
4	パウネック・アントゥン	騎 行	1971	30	エップレ・ブルーノ	水浴する若い女性	1973
5	バルカ・ニーナ	パ リ ス の 審 判	1968頃	31	ファヴィエ・セシル	花 束	1968
6	ボーシャン・アンドレ	女 中 と 山 羊	1968頃	32	フィゲレド・ルイス＝カルロス	ヤ マ ン ジ ャ	1981
7	〃	アンダイの海岸の人物	1947	33	フー・ジャン	村 の 祭 り	
8	〃	聖 母 被 昇 天	1924	34	ガレオティ・フランチェスコ	鳥 使 い	1964
9	〃	天の声に呼ばれる ジャンヌ・ダルク		35	ガルニエ・E	室 内 の 静 物	1926
10	〃	婦 人 と 子 供		36	ジ ー フ	ジル・ド・バンシュ	1899
11	〃	シャベルロ中尉の肖像	1929	37	ジェネラリック・ヨシツブ	雪 だ る ま	1969
12	ブノワ・ジャクリヌ	花 屋	1964	38	〃	浴 女	1967
13	ボワシエ・ロジェ	刈 り 取 る 人	1980	39	グレッフ・レオン	7 月 14 日 の 舞 踏 会	
14	ボラー・ゴルキ	ユ リ シ ー ズ	1982	40	グリム・モーリス	景 色	1955
15	ボンボワ・カミュー	驚 い た 浴 女 た ち	1930	41	ギ レ ー ヌ	大 浮 氷 群	1978
16	〃	花 束		42	ギゾル・アンリ	村 の サ ー カ ス	〃
17	〃	秋 の 森 の 人 物		43	ハッドルセ・ヴィンセント	メキシコの騎士の装いをした アナトール・ヤコフスキーの肖像	1966
18	ブーケ・アンドレ	ヴィルヌーヴ＝サン＝ ジョルジュの雪景色	1960頃	44	エ ル ジ	サント・シャベル	1980
19	シャルガロ	ヴィルヌーヴ＝サン＝ ジョルジュ	1991	45	ヘッシング・パール	ヨ ナ	1978
20	クロチアニ・エミール	ニースの夜の祭り	1960	46	イアボニ・アラウジョ	森の中で道に迷った 小さなインディアン	1970
21	ダ＝シルヴェラ・エリザ	カ ー ニ ヴ ァ ル		47	イラセマ・アルディティ	ア マ ゾ ン	1965
22	ドウ＝ケキ・ジュゼッペ	2 匹 の フ ラ ミ ン ゴ	1977	48	ジェフトヴィック・ドウサン	村 の 祭 り	
23	デシュレット・ルイ＝オーギュスト	クレムリンの占領	1939	49	クリサク・ジャン	有 給 休 暇	1979
24	デルナテウス・ジャン＝パティスト	ポール・サリュの夫婦	1982	⑤⑩	クレカ・ドルジェ	懇 願	
25	ドウ＝メジョー・オスカール	ボ ー ト	1971	⑤⑪	クズマン・ミジョー	パイプを吸う男	1976
26	ドモンシニ・アンドレ	バスティーユ広場	1959	52	クイアトコヴスキー・ジャン	散 歩	1955

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
53	ラエティティア	輪 舞	1979	89	トゥネイヨ・L	パイプを吸う猫	
54	ラ=ジロディエル・マディ=ドゥ	司 祭 の 庭	1963	90	トニアト・ウド	神 学 生	1973
55	ラグリユ・ドミニク	ソドムの街から逃げ出すロト	1954	91	トゥルイヤール・アンリ	昔 no.1	
56	ラバジェス・ジェラル	パ ス 停		92	ヴァンデルスディーン・ゲルマン	二 匹 の 猫	1970
57	ルフラン・ジュール	サン・マチュ岬の灯台	1947~48	93	ヴェルクリュス・ベルナル	パ テ ル と レ ロ	
58	"	ラヴァル, シャベル通り		94	ヴェール=ニベ・ミッシェル	ル シ オ ン の 秋, 柿	
59	"	ジ ョ ス ラ ン 城		95	ヴィエイヤール・リュシアン	バヤールの旧十字路	1971
60	マイグ・アンリ	花 1958年10月	1958	96	ヴィヴァンコス・ミゲル=ガルシア	レースのテーブルクロスと花瓶	1958
61	マタモロス・ルベルト=ジェイ	帰 路	1967	97	"	村のメリーゴーランド	1971
62	マクシム	村 の 汽 車		98	ヴィヴァン・ルイ	パリ, セーヌ川とオルセー河岸	
63	メイエリ・ホルザー	バトー・ラヴォワールの税官吏ルソーに捧ぐ	1981	99	"	パリ, サクレ・クール寺院	
64	モライス・クリサルド=ダズンカオ	ヤ マ ン ジ ャ	1973	100	ヨルダノフ・ディミトリ	アナトール・ヤコフスキーの肖像	1968
65	ムラツ・フランジョ	休 日	1935	101	作者不詳	婦 人 像	
66	オルティス・セバステイアン	ス ペ イ ン の 楽 屋	1850	102	"	カ リ ュ メ	
67	パロチ=ニコレット	バ ベ ル の 塔	1977	103	"	ヴァイオリン弾き	1960頃
68	ペトロヴィック・リュウバ	村 へ の 帰 路	1975	104	"	イヴェット・ギルベルの肖像	
69	ピケ・W	廃 墟 と 川	1889	105	"	ばら園の中の婦人	
70	プラスコシンスキー・ジャン	建 築 物	1973頃				
71	プジェ・テレーズ	国際ナイーフアート アナトール・ヤコフスキー美術館		<特別出品>			
72	キール・ヨアキム	ピ カ ソ に 捧 げ る	1969	106	ルソー・アンリ	散歩(ビュット・ショーモン)	1908頃
73	ラバザン・イヴァン	太 陽 の 花	1967	107	"	第22回アンデパンダン展に参加するよう芸術家たちを導く自由の女神	1905~06
74	リエック	未 開 の 森					
75	ランペール・ルネ	芸 術 と 人 生	1975				
76	ルソー・アンリ	サン=ニコラ河岸から見たサン=ルイ島	1888				
77	"	犬	1990~95				
78	"	猫	"				
79	"	正当な権利の天秤	1892				
80	"	ラ・ブティット・カルマニョール	1893				
81	"	水 車	1896				
82	"	橋	1905頃				
83	作者不詳(ルソー作と見なされる)	室内の婦人と動物	1895頃				
84	サラウン・アンドレ	レ・フォリ・ベルジェール	1972頃				
85	セラフィヌ・ルイ	花 束					
86	シュペネル・ジャン	ベル=イル=アン=メール					
87	セネシャル・マルセル	モンマルトルのサクレ・クール寺院	1981頃				
88	スキュルジェニ・マト	運 命 の 鳥					

○印は彫刻作品

所蔵機関等

ナイーフ美術館

No. 1 ~ 6, 12~14, 18~26, 30~32, 34, 37, 39, 40, 42~45, 47~54, 56, 57, 63~65, 67, 68, 70, 71, 73, 84, 86~88, 90, 93~96, 100~103

プチ・パレ・ジュネーヴ

No. 7, 15, 27~29, 55, 79, 92, 98, 99

ラヴァル美術館

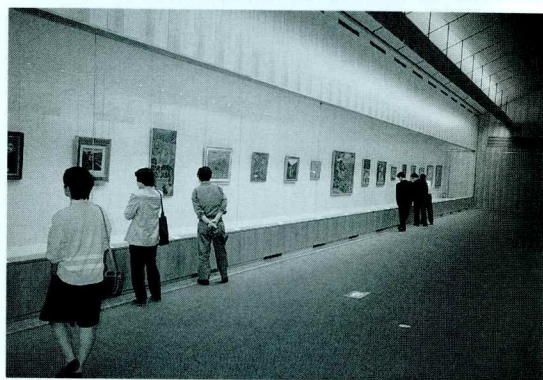
No. 8, 16, 38, 46, 58, 59, 62, 72, 75, 91

ディーナ・ヴィエルニー No.77, 78, 81

ハーモ美術館 No.80

世田谷美術館 No.76, 106

東京国立近代美術館 No.107



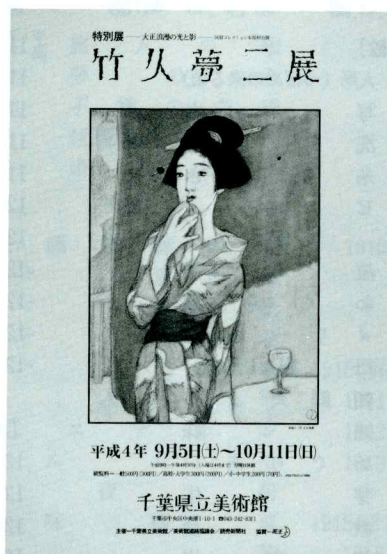
竹久夢二展

会 期 平成4年9月5日(土)～10月11日(日)
 展示点数 290点
 入場者数 32,723人

大正ロマンの寵児として知られ、「宵待草」の詩や憂いを湛えた「夢二美人」で一世を風靡した竹久夢二(1884～1934)は、画家・詩人としてのみならず、出版美術、商業デザイン、工芸など幅広い分野で活躍した作家である。

近年、夢二への関心と芸術への評価が高まり、多角的な研究とともにその全体象が紹介されるにつれ、ますます多くの人々を魅了している。

夢二と本県とのかかわりは、銚子での滞在をもとに作られた詩「宵待草」に代表されるように深いものがある。そこで本展覧会では、我が国有数の夢二コレクションである河村幸次郎コレクションを本県で初公開し夢二の芸術に迫るとともに、「夢二と房総」のコーナーを併設し、本県での夢二の足跡を紹介した。



出品目録

No.	作	品	名	制作年	No.	作	品	名	制作年									
[日本画]					[洋画]													
1	春	の	野	1911	33	カ	フ	エ	の	女	1915頃							
2	ぬ	れ	つ	ば	34	山				娘	1916頃							
3	桑			"	35	初				夏	1917頃							
4	待			"	36	青			春	譜	1930							
5	青	い	衣	物	の	37	黄		八	丈	1931							
6	郷				38	雪				野	1911頃							
7	鴨	東	舞		39	被		布	の	女	1914頃							
8	阿	蘭	陀	屋	敷	40	椅	子	の	女	1918頃							
9	切	支	丹	波	天	長	崎	十	二	景	青	1920						
10	木	に	よ	れ	る	42	"			サ	ボ	テ	の	花	"			
11	室	之			懷	43	"			ネ	ク	タ	イ	"	"			
12	爪		津	切		44	"				十	字	架	"	"			
13	春	遠	か	ら	じ	45	"				燈	籠	流	し	"			
14	扇	を	持	つ	舞	46	"				化	粧	台	"	"			
15	春		娘		図	47	"				出	上	天	主	島	"		
16	夕				粧	48	"				浦	風	鏡	橋		"		
17	初				夏	49	"				眼	阿	片	窟		"		
18	南	枝	早		春	50	"					丘	の	青	楼		"	
19	鞍		馬		風	51	"					舞	産	朝	の	光		
20	秘	葉	留	紫	雪	52	"					十			姫	衣		
21	歌				多	53	女	十	題			産	朝	の	光			
22	紅	衣	扇		舞	54	"					朝	三	味	線	へ		
23	榛		名		湖	55	"					三	黒	木	場	の		
24	鳥	海	山	暮	雪	56	"					木	ネ	ル	の	感		
25	流				水	57	"					逢	北	方	の			
26	錦				秋	58	"					紅						
27	春	を			う	59	"											
28	雪	に			る	60	"											
29	庭		石	(七夕)	1930頃	61	"											
30	二	人	舞	妓	1931	62	"											
31			旅		"	63												
32	洗			髪	"	64	み	よ	う	が								1930頃

No. 作 品 名 制作年

[挿絵]

65 人形 (つばめの来る頃)
 66 写 生
 67 洗 濯
 68 糸 ま き
 69 ピ ア ノ 1932
 70 駅
 71 泣 く 妻
 72 わ く ら 葉
 73 メ リ ー さ ん
 74 母 娘 (影絵)
 75 朝 鮮 だ よ り
 76 姉 妹
 77 め ぐ り あ い
 78 芽 生
 79 教 会
 80 停 車 場
 81 花 束
 82 鳩
 83 女 優
 84 ク ラ リ ネ ッ ト
 85 姉さんさよなら
 86 姉 の 入 院
 87 給 士 さ ん
 88 彼 の 家
 89 可愛いブリマドンナ
 90 秋 の 刈 入 れ
 91 い ち ょ う の 落 葉
 92 (秋 の 校 庭)
 93 父 母 の 旅 立 ち
 94 電 車 の 中
 95 眼 鏡 の お ば さ ん
 96 (哀 れ な 兄 弟)
 97 恐怖(A)ピストルの影
 98 炉 ば た の 話
 99 レイチャンの目覚め
 100 デ ュ エ ッ ト
 101 公 園 の ベ ン チ
 102 恐怖(B)ピストルの影
 103 蘇 州 の 夏
 104 別 れ ば な し
 105 チ ョ コ レ ー ト
 106 病むおじいちゃん
 107 待 合 室
 108 秋 の 刈 入 れ
 109 榛 名 へ の 夢
 110 ヴ ァ イ オ リ ン
 111 夕 仕 度
 112 新 し い 先 生
 113 パ ル コ ニ ー
 114 投 身
 115 ク リ ス マ ス イ ブ
 116 奉 公 に 行 く

No. 作 品 名 制作年

115 ピ ス ト ル
 116 お び え る
 117 青 い 酒
 118 森
 119 出 合 い
 120 露 路 の 裏
 121 ギ タ ー
 122 御 座 敷
 123 毒 草
 124 切 通 し
 125 階 段 の 道

[素描]

126 断 髪 の 女
 127 浅 草 十 二 階
 128 浅 草 風 景 1
 129 " 2
 130 " 3
 131 " 4
 132 冬 の 広 場
 133 土 佐 太 夫
 134 三 味 線 月
 135 東京震災 浅草五区
 136 東京震災 馬 車
 137 読 書
 138 娘 の 顔
 139 大 震 災 風 物
 140 オ ル ガ ン
 141 柳 の 芽
 142 吉 原 の 女
 143 顔
 144 橋 の た も と
 145 ピ エ ロ
 146 島 田 鬻
 147 湯 上 り の 子 供
 148 赤 い 帶
 149 寝 顔
 150 待 合 室
 151 木 馬
 152 病 あ が り
 153 帽 子
 154 玉 乗 り
 155 宿 の 女
 156 芸 妓
 157 羽 織
 158 束 髪
 159 帶 じ め
 160 黒 衿
 161 仲 居 さ ん
 162 京 の 別 荘

No. 作 品 名 制作年

[デザイン]

163 初 春 1926
 164 不 壊 の 白 珠
 165 舞 鶴 小 唄
 166 京 の 舞 妓
 167 信 濃 の 雪
 168 十 和 田 湖 の 女
 169 唐 人 お 吉
 170 白 久 温 泉
 171 戸 倉 温 泉
 172 札 所 巡 り
 173 楽 譜 と 表 紙 少 女 の 画
 174 麗 し き 天 然
 175 故 郷 の 廃 屋
 176 別 れ の 歌
 177 オ ノ オ ヤ マ 女
 178 セ 楽 譜 表 紙 原 画
 179 セ ノ オ 楽 譜 表 紙 原 画
 180 "
 181 "
 182 "
 183 ハルモニカ楽譜表紙原画
 184 カレンダー-図案 宝船
 185 " 宿場
 186 ス キ ー 節
 187 西 尾 小 唄
 188 波 浮 の 港
 189 秩 父 小 唄
 190 大 文 字
 191 少女世界 1927年新年号
 192 長 瀬
 193 南 蛮 船
 194 チ ュ ー リ ッ プ
 195 民 謡 詩 人
 196 少女世界 11月号
 197 童 謡 小 曲
 198 マ ノ ン ・ レ ス コ ウ
 199 須 坂 小 唄
 200 家 庭 日 記 1931

[版画]

201 宝 舟 1929
 202 木 版 画 10 点

No.	作	品	名	制作年
[楽譜]				
203	セノ	オ楽譜	初恋之歌	1924(6版)
204	"	"	歌劇「ホフマンの物語」	"(8版)
205	"	"	蘭「うた(改訂版)」	1921(再版)
206	"	"	春の宵	1920(再版)
207	"	"	歌劇「椿姫」	1927(11版)
208	"	"	揺籃	1924(5版)
209	"	"	汝が碧き眼を開け	1922(4版)
210	"	"	別れし宵	"(3版)
211	"	"	ロマンス	1923(3版)
212	"	"	鐘	1922(3版)
213	"	"	荒城の月	1924(再版)
214	"	"	涙	1927(5版)
215	"	"	もしや逢ふかと	1922(再版)
216	"	"	雪の扉	"
217	"	"	街燈	1922(2版)
218	"	"	歌劇「プロフエット」	1921(再版)
219	"	"	「ああわが子よ」	"
220	"	"	愛の古き歌	"
221	"	"	スキートホーム	1928(8版)
222	"	"	いわれぬ嘆き	1920
223	"	"	消えてあとなき	"
224	"	"	ちゝのみの	"
225	"	"	匂ひの雨	"
226	"	"	暮れて行く	"
227	"	"	歌劇「ラ・ボエーム」	"
228	"	"	「コートよさば」	"
229	"	"	ふるさとの海	"
230	"	"	歌劇オペラ「人魚の歌」	1924(再版)
231	"	"	乙女の春	1922
232	"	"	巷の雪	"
233	"	"	泣き黒子	"
234	"	"	流れ星	1924(再版)
235	"	"	深い河	1923
236	"	"	伊太利名曲「マチナータ」	1924(再版)
237	"	"	ハバネラそなた	1923
238	"	"	いにしへの	"
239	"	"	モールゲン	1925
240	"	"	里祭	1924
241	"	"	我家の唄	"
242	"	"	ヴェニス船唄	"
243	"	"	草の夢	"
244	"	"	天使	"
245	"	"	草の中に唄える	"
246	"	"	かいなき小夜曲	1926
247	"	"	野薔薇	"
248	"	"	バラダイス	"
249	"	"	君よ知るや南国	1924(10版)
250	中	山	波浮の港	
251	作	曲	マノン・レスコオの唄	
252	"	"	当世銀座節	
253	"	"	鎮西小唄	
254	"	"	望月小唄	
	"	"	椿	
	"	"	東京行進曲	

No.	作	品	名	制作年
255	中	山	旅人の唄	
256	作	曲	夢の女	
257	"	"	不壊の白珠	
258	"	"	琵琶湖しゃんそん	
259	"	"	唐人お吉	

[著作本]

260	夢	二	画集	春の巻	1910
261	"	"	"	夏の巻	"
262	"	"	"	秋の巻	"
263	"	"	"	冬の巻	"
264	"	"	"	花の巻	1910(再版)
265	京	人	形		1911
266	夢	二	エデホ		1912
267	ど	ん	た		1913
268	昼	夜	帯		"
269	三	味	線		1915(3版)
270	暮		草		1916
271	夜	の	露		"
272	春	の	鳥		1917
273	山	へ	の		1919
274	露	地	の		"
275	青	い	小		1925
276	砂		が		1940

[装幀本]

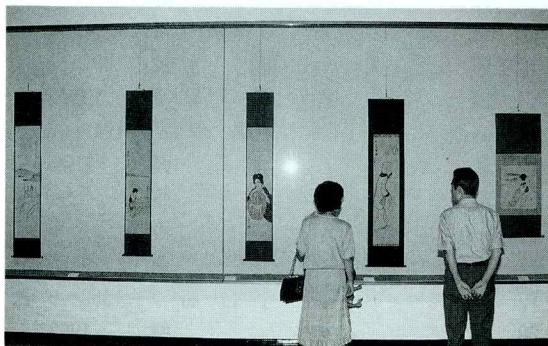
277	高信孝治著	光	ち	ゃ	ん	1913
278	大平八郎著	ハ	イ	ポ	ッ	1914
279	有本芳水著	芳	水	詩	集	1914(6版)
280	長田幹彦著	情話新集第二編	舞妓姿			1915(4版)
281	"	鴨	川	情	話	1915
282	吉井勇著	東	京	紅	燈	1916
283	長田幹彦著	祇	園	夜	話	1918

[絵はがき類]

284	絵	ハ	ガ	キ	19点
285	封			筒	17点
286	便	せ	ん		
288	千	代	紙	3点	

[書簡]

289	永	井	兼	代	(お葉)	宛
290	大	藤	昇	氏	宛	2通



企 画 展

房総の美術家シリーズ - 22 -

石 井 光 楓 展

会 期 平成4年11月21日(土)～12月24日(木) 28日間

展示点数 106点

入場者数 19,224人

石井光楓(1892～1975)は、夷隅郡浪花村(現大原町)に生まれ、はじめ石井林響に日本画を学び、後に小杉未醒の作品に魅せられて洋画に転向し、第3回帝展で「牛の蹄を切る」が入選し、特選候補となった。その後アメリカに渡り、カリフォルニア・アート・スクールや、シカゴのアート・インスティテュートに学び、水彩などの技法を修め、さらに渡欧して、パリのアカデミー・ジュリアンで洋画を本格的に学んだ。留学中の約11年間に彼は優れた描写力と東洋の情趣に富んだ作品をパリのサロン等に数多く発表した。

昭和6年に帰国後は、主に春陽会に出品し、欧米で培った強靱な造形感覚が評価され、22年に春陽会賞を受賞、24年に会員となった。

昭和24年から33年までは県立長生第一高等学校で美術を教えるとともに、色面を強調したフォーヴィスム的な画風を確立し、制作に励んだ。

本展では、油彩52点、水彩54点、その他関係資料を公開した。



出 品 目 録

No.	作 品 名	制作年	No.	作 品 名	制作年
[油彩]					
1	パ リ 郊 外 (マラコフ)	滞欧時代	21	製 材 工 場	1962頃
2	ブルタニューにて	1931	22	初 夏 緑 蔭	1963頃
3	靴 屋	滞欧時代	23	酒 倉	"
4	ク イ ジ ニ ュ ー ル	"	24	鶴 原 に て	1964
5	パ リ の 街 頭	"	25	初 霜	"
6	老 人	"	26	運 河	"
7	ブ ロ ン ジ 村 の 秋	"	27	三 島 に て	1965頃
8	港	"	28	果 樹 園 の 一 隅	1966
9	読 経	"	29	橋 畔 (1)	1967
10	農 家 の 庭	"	30	緑 蔭	1968
11	土 蔵 の あ る 風 景	1934	31	晩 秋	"
12	田 園 風 景	"	32	ば ら 物	1968頃
13	自 画 像	1947頃	33	静 村	1969
14	高 井 戸 風 景	1947～48頃	34	蚕 の 村	1969頃
15	鶏 頭	1947	35	甲 斐 駒 ケ 岳	1969頃
16	木 蓮	"	36	岩 船 風 景	"
17	い ち は つ	"	37	村 の 農 家	1970
18	木 蓮	1947頃	38	山 の 別 荘	"
19	大 原 (岩 船)	1956～57頃	39	山 荘	1971
20	霜 の 朝	1962	40	山 番 の 小 屋	1971
			41	シ ド ル 工 場	1972

No.	作	品	名	制作年
42	農	園	の 一 隅	1972
43	冬		の 海	1973
44	出		漁	"
45	ダ		リ ア	"
46	陽	春	の 庭	1974
47	コ	ス	モ ス	
48	白		い 菊	1975頃
49	フ	ラ	ン ス の	
50	凌		霄 花	
51	ポ		ビ ー	
52	コ	ス	モ ス (絶筆)	

[水彩・他]

53	タ		コ マ	1925
54	帆		船	滞米時代
55	ロ	サンゼルス・イーグル	ロック	"
56	ラ		ン ゲ ル	"
57	ラ		ン ゲ ル の 浜	"
58	橋		の あ る 風 景	"
59	ボ	ー ト ラ ン ド	風 景	"
60	オ	レ ゴ ン	風 景	"
61	オ	レ ゴ ン	に て	"
62	ス	ボ ー ケ ン	の 橋	"
63	町		の 鉄 工 所	"
64	ス	ペ イ ン ・ エ ス コ ル		滞欧時代
65	ス	ペ イ ン ・ ト レ ド	の 人 家	"
66	ア	ー ブ ル 市 ・ 場	末	"
67	ひ		と 休 み	"
68	肉			"
69			城	"
70	噴	水	の あ る 公 園	"
71	ペ	テ ル	ス ブ ル グ	"
72	荷		揚 げ	"
73	橋			"

No.	作	品	名	制作年
74	セ	一	ヌ 河 畔	滞欧時代
75	橋		畔	"
76	ル	一	ア ン	"
77	田	園	風 景	"
78	教		会	"
79	中	国	風 景	1936~40頃
80	漁		港	"
81	焼		岳	1944
82	溪		谷	
83	秋		の 山	
84	三	島	風 景	1961
85	沼	津	郊 外	"
86	製	材	工 場	1962
87	初		霜	1964
88	三	島	の 富 士	"
89		"	(2)	
90		"	(4)	
91			花 原	
92	大		色 紙 (山 水)	
93			" (あ ざ み)	
94			" (鮎)	
95			" (1)	
96			" (2)	
97			" (水 仙)	1968頃
98			" 水	
99	山			
100			梅	
101	岩	船	風 景	
102	ス	ケ ッ チ	(1)	
103		"	(2)	
104		"	(3)	
105	裸		婦 (1)	
106		"	(2)	



— リアリズムの追求 —

第3回浅井忠記念賞展

会 期 平成5年1月16日(土)～2月21日(日) 32日間
 展示点数 88点
 入場者数 20,668人

本館は開館以来、近代日本洋画の先駆者で、リアリズムの追求を続けた本県出身の洋画家・浅井忠の画業を顕彰することにつとめてきた。この間、昭和58年度に開館10年記念事業として、浅井忠の精神を現代に生かし、また、現代の美術振興に寄与するため、公立美術館として初めての試みである全国公募による「浅井忠記念賞展」を開催し、多大な評価を得ることができた。

このたび、第3回展を開催することにより、現代における美術の一層の振興を図り、その動向を紹介する機会とした。

今回は、287点の作品が全国から寄せられ、審査の結果、大賞1点、優秀賞3点、入選84点が選ばれた。

審査員 乾 由明、植村鷹千代、陰里鐵郎、○嘉門安雄、桑原住雄、
 富山秀男、中村傳三郎、本間正義、三木多聞
 (五十音順) ○は審査会長

出 品 目 録

No.	作 家 名	作 品 名	No.	作 家 名	作 品 名
<大 賞>					
1	伊 藤 順 一 (東京)	里	20	大 原 裕 行 ("	NUOROの街角('92-13)
<優秀賞>					
2	畠 中 陽 一 (神奈川)	アルミネーション 光りの誘惑	21	奥 村 靖 子 (大阪)	フーガ・シーコンテナ
3	近 藤 南海子 (東京)	グレイの冬	22	小 田 泰 之 (東京)	1989年6月4日天安門
4	王 軍 (神奈川)	蘇州水郷	23	小 原 素 彦 (京都)	微 光 (梨)
<入 選> (五十音順)					
5	青 木 貴 次 (千葉)	鉦 山 晴 天	24	景 山 憲 (香川)	商 都 展 望
6	荒 木 尚 ("	Metamorphose-阿蘇	25	笠 原 葉 子 (茨城)	～房総シリーズ～ 魔船のコンポジションII
7	井 草 裕 明 (埼玉)	夢のアトリエにて-114	26	片小田 栄 治 (東京)	地・DIRTY COLLECTION
8	生 田 裕 人 (千葉)	大雪警報解除	27	片 山 龍 一 (大阪)	現 風 景 (表層)
9	池 末 満 (福岡)	それぞれの空	28	鹿 野 浩 (埼玉)	パ ン ド ラ
10	石 井 誠 (神奈川)	いつか見た空	29	河 崎 朱三枝 (東京)	Le temps(時)・軍艦島
11	石 川 和 男 (千葉)	瞑 黙 の 刻	30	国 武 佑 子 (千葉)	我が妹なる花々は
12	稲 垣 直 樹 (大阪)	広 場 の 夜	31	倉 田 和 夫 (兵庫)	B R E A D - 17
13	今 関 健 司 (神奈川)	突 貫 工 事 の 末	32	栗 崎 武 成 (千葉)	ト レ ド
14	岩 井 博 之 (大阪)	窮 民	33	黒 木 重 雄 (茨城)	風 葬 塔
15	岩 撫 幸 博 (千葉)	魔 船 (残)	34	黒 瀬 道 則 (愛知)	痕 跡 B
16	上 田 一 正 (茨城)	数モえきれな危惧	35	黒 田 邦 裕 (千葉)	群 像 (悠)
17	大 北 節 子 (千葉)	時のあいだに	36	小 泉 清 (埼玉)	イ ノ セ ン ス
18	大 塚 利 典 (埼玉)	あれは、南からの風	37	古 賀 正 夫 (東京)	西 安 の 並 木 道
19	大 槌 隆 (千葉)	風 の な い 午 後	38	小 山 佐 敏 (埼玉)	生命都市シリーズ「集積」
			39	斎 藤 永 良 (千葉)	み ど り の 糸
			40	斎 藤 望 ("	訪 問
			41	佐 藤 淳 ("	エ ト ル リ ア 礼 讃



No.	作家名	作品名
42	佐藤 勤(東京)	人・風 力・飛行の研究・無重力
43	新谷 浩二(岡山)	時間と存在Ⅱ
44	新保 甚平(石川)	水 辺
45	杉本 由明(埼玉)	清地(すがち)の森
46	杉本 治子(愛知)	アテンション
47	須藤 初雄(茨城)	狐 火
48	染谷 厚(埼玉)	畏
49	高野 考太郎(〃)	人 間 の
50	多田 耕二(千葉)	風 景
51	館野 弘(茨城)	象の街(Cage gose Home)
52	田中 道太郎(千葉)	ドルメン回想「滅びゆくもの」
53	田邊 光則(茨城)	Woman in Red (孤独な影)
54	田沼 和夫(千葉)	CLEAN - ENERGIE
55	丹原 晋作(茨城)	創造される大地
56	陳 雷(東京)	銀座 風景
57	常松 昭夫(北海道)	海
58	中井 英夫(大阪)	風景(記憶)
59	中畔 千嘉(東京)	椿の自画像
60	中野 耕司(千葉)	僕のサンクチュアリ
61	鍋島 正一(〃)	静謐な舞踏
62	濱 英二(長崎)	開かれた扉 '92
63	蛭田 均(京都)	typewriter
64	福田 玲子(茨城)	わたしが来た
65	藤沼 多門(栃木)	Prism

No.	作家名	作品名
66	古川 勝紀(埼玉)	存在への儀式・I
67	星加 達夫(フランド)	私達の生活
68	星加 哲男(広島)	1992・夏
69	星野 文和(東京)	瞑 想
70	細川 尚(千葉)	少し寂しい日々
71	仏山 輝美(茨城)	翼を守る人々
72	前川 ケイコ(埼玉)	静 物
73	松村 憲一(愛知)	夕 景 運 河
74	松本 忍(埼玉)	松 郷 雪 景
75	丸田 栄蔵(〃)	Shadow City
76	丸畑 豊(大阪)	紅 荷 清 風
77	安原 竹夫(埼玉)	ほどける風景シリーズ 「みんないっしょにeruption」
78	安盛 孝一郎(神奈川)	午後 の 投 影
79	矢野 真一(東京)	男
80	山口 賛治(京都)	北 の 風 景
81	山口 静治(兵庫)	もう 1 人 の 私
82	山崎 玲子(神奈川)	8 月
83	山下 哲郎(福岡)	Nifty
84	横須賀 幸正(茨城)	諸 行 無 常
85	吉岡 真(新潟)	窓 - 根あがり松 -
86	若林 真盛(千葉)	風 景
87	若山 保夫(〃)	マリア像のある群れ
88	脇 豊(〃)	リンゴの詩

() 内は居住地



第16回 千葉県移動美術館

会 場 ①大原町文化センター
②大栄町コミュニティプラザホール
会 期 ①平成4年11月12日(木)～11月25日(水)
② " 11月28日(土)～12月10日(木)
展示点数 ① 44点 ② 44点
入場者数 ① 1,396人 ② 393人

館収蔵作品を中心に県展受賞作品の一部を加えて移動美術館を行い、美術品が身近に鑑賞できる機会を提供した。



出品目録

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
-----	-----	-------	-----	-----	-----	-------	-----

「館収蔵作品」

<日本画>

1	富取風堂	魚 と 果	1956
2	横尾芳月	夕 粧	1981
3	島多訥郎	秋 趣	1966
4	渡辺 学	下 総 の 海 女	1982頃
5	松尾敏男	原 野	1971

<洋画>

1	フォンタネージ	木 立	1868～72
2	浅井 忠	フォンテンブローの夕景	1901
3	都鳥英喜	婦 人 像	1919頃
4	鹿子木孟郎	風 景	
5	石井柏亭	安 倍 川	
6	梅原龍三郎	皇 居	1980
7	石橋武治	白鷺のいる風景	1953
8	安藤信哉	パ リ の 窓	1962
9	中西利雄	4 人 の 女	1939
10	内藤 隼	緑衣の婦人像	1961
11	富田通雄	外 房 鶴 原	1964
12	小堀 進	逆 光	1974
13	山本不二夫	ハイデルベルグ風景	
14	笹岡了一	秋 麗 芦 ノ 湖	1969
15	柴田祐作	白 い 蔵	1988

<彫刻>

1	高村光太郎	手	1918
2	柳原義達	風 の 中 の 鴉	1984
3	佐藤忠良	ラ ッ プ 帽	1982
4	舟越保武	婦 人 像	1985
5	山本正道	エトルリアの壺	"

<工芸>

1	香取秀真	鳩 香 炉	1949
2	津田信夫	北 辺 夜 描 子	1941
3	宮之原謙	鉄茶釉鱗文花瓶	1968頃
4	鹿島一谷	布目象嵌菱つなぎ文南鍍水指	1981
5	土肥刀泉	釉彩両耳花瓶	1967頃
6	秋山逸生	菱華文象嵌長手箱	1946
7	信田 洋	黒孔雀の瓶	1967
8	藤田喬平	飾 宮・しだれ桜	1985

<版画>

1	石井柏亭	佐 原	1917
2	浜口陽三	ざ く ろ	1958
3	星 襄一	王 の 樹	1976
4	深沢幸雄	掌 の 中 の 影	"
5	池田満寿夫	中 間	1967

<書>

1	浅見喜舟	櫛 櫛	1976頃
2	小暮青風	天 鷲	1966
3	中村象閣	古泉千櫛の和歌	1972

「第44回県展出品作品」

1	甲斐貴志枝	晨(日本画・県展賞)	1992
2	瓜生洋子	回想(洋画・県展賞)	"
3	奈良尚石	萬壑秋意帰(書・県展賞)	"



大原町（大原町文化センター）



大栄町（大栄町コミュニティプラザホール）



普及事業

美術講演会は、展覧会に併せ年5回開催した。

また、特別展「竹久夢二展」の会期中に「夢二の詩コンサート」を開催した。

実技講座は、経験者を対象とした美術館講座7種9講座(延89日)を開催した。

図書は、年間270冊収集し、現在4,215冊を収蔵し、情報資料室において県民の利用に供している。

刊行物は展覧会に併せた図録、チラシ、ポスター、目録、更に館報2回、房総の美術史、年報、事業案内、館概要などを刊行した。

そのほか、友の会事業による初心者を対象とした実技講座3種9講座(延50日)、美術鑑賞の旅等をはじめ、博物館実習生の受け入れ(10大学13人)などに協力した。

教育普及

美術講演会

美術に対する関心や理解を深める機会として、展覧会に併せて美術講演会を実施した。各講師ともスライドを用いて、展覧会作品を中心に解説を行った。

特別展「アンリ・ルソーとナイーフ美術展」では、会期中2回の講演会を開催した。まず、5月23日に跡見学園女子大学教授の岡谷公二氏が、近年注目されるようになったナイーフ美術の画風や美術史上の位置について講演された。次いで6月13日に洋画家の塩水流功氏が、画家としての立場からナイーフ美術について、自作の作品の紹介も交えて講演された。

特別展「竹久夢二展」では、9月12日に美術評論家の瀬木慎一氏が、作家として幅広く活躍した夢二の人生を振り返りながら、彼の業績を浮き彫りにした。

企画展「石井光楓展」では、11月28日に筑波大学教授の石井武夫氏が、大原町に生まれ、長くヨーロッパ留学をした後、春陽会を舞台に活躍した光楓の画風や人となりについて、詳細に話された。

企画展「第3回浅井忠記念賞展」では、1月23日に当館副館長の小池賢博が、近代リアリズム絵画の流れに触れながら、入賞・入選作品の様々な画風の特徴について講演した。



No.	期 日	演 題	講 師	聴講者数
1	5月23日(土) 2時～4時	アンリ・ルソーの人と作品	岡谷 公二 (跡見学園女子大学教授)	146人
2	6月13日(土) 2時～4時	ナイーフ美術と私	塩水流 功(洋画家)	87人
3	9月12日(土) 2時～4時	竹久夢二 — 愛と孤独の絵画	瀬木 慎一 (美術評論家)	174人
4	11月28日(土) 2時～4時	石井光楓 — 人と作品	石井 武夫 (筑波大学教授) (独立美術協会運営委員)	107人
5	1月23日(土) 2時～4時	浅井忠記念賞展とリアリズム	小池 賢博 (当館副館長)	96人

ミュージアムコンサート

特別展「竹久夢二展」の開催に併せ、「夢二の詩コンサート」と題して、9月19日に、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉のメンバーの演奏による夢二作詞の歌曲を中心としたコンサートを行った。

曲 目	演 奏 者
1 宵待草	横山 美奈 (ソプラノ)
<夢二の詩>	中里 かほり
2 別れし宵	(ソプラノと司会)
3 紡車	田崎 祐子 (ピアノ)
4 母	<室内楽>
5 風の子供	本庄 篤子 (ヴァイオリン)
6 宵待草	黒田 育子 (フルート)
<ふるさとの歌>	斎藤 章一 (チェロ)
7 早春賦	
8 浜辺の歌	
9 たあんき・ぼーんき	
10 ふるさとの	
11 この道	
12 里の秋	



実 技 講 座

(1) 日本画講座

期 日 平成4年5月22日(金)・23日(土)・24日(日)・26日(火)・27日(水)・28日(木)・
29日(金)・30日(土)・31日(日) 6月2日(火)・3日(水)・4日(木)

(12日間／うち講師指導日数8日間)

講 師 斎藤 惇氏

受講者数 21人

内 容 経験者を対象して、花・くだもの・人物等のモチーフにより制作した。同時にドーサの作り方・絵の具・にかわ・筆・紙等の材料・道具の取り扱い方など基礎的な学習の後、彩色の技法について学習した。



(2) 洋画講座

期 日 第1期 平成4年7月2日(木)・3日(金)・4日(土)・5日(日)・7日(火)・
8日(水)・9日(木)・10日(金)・11日(土)・12日(日)

第2期 平成4年7月23日(木)・24日(金)・25日(土)・30日(木)・31日(金)・
8月1日(土)・6日(木)・7日(金)・8日(土)・9日(日)

(各10日間／うち講師指導日数は各7日間)

講 師 第1期 松沢 茂雄氏

第2期 戸田 健夫氏

受講者数 第1期 35人

第2期 28人

内 容 経験者を対象として第1期は人物を、第2期(水彩)は静物、人物をそれぞれモチーフとして、デッサン、構図、彩色などの基礎的技法とより幅広い表現について学習した。



(3) 版画講座

期 日 平成4年6月11日(木)・12日(金)・13日(土)・14日(日)・17日(水)・18日(木)・
19日(金)・20日(土)・21日(日)・23日(火)・24日(水)・25日(木)

(12日間／うち講師指導日数は各7日間)

講 師 増田 陽一氏

受講者数 19人

内 容 経験者を対象として、銅板・亜鉛板を素材に、凹版画の制作を通して材料や用具の扱い方、エッチングやアクアチントなどの各技法、更に刷りの技法について学習した。



(4) 彫刻講座

期 日 平成4年8月4日(火)・5日(水)・6日(木)・7日(金)・8日(土)・9日(日)・
11日(火)・12日(水)・18日(火)・19日(水)・20日(木)・21日(金)

(12日間／うち講師指導日数は各7日間)

講 師 渋谷 三朗氏

受講者数 15人

内 容 経験者を対象として、木を素材に、人物の表現方法、更に道具の
取り扱い方を学習した。



(5) 陶芸講座

期 日 第1期 平成4年7月1日(水)・2日(木)・3日(金)・4日(土)・5日(日)・
14日(火)・21日(火)・22日(水)・30日(木)

(各9日間／うち講師指導日数は各5日間)

第2期 平成4年9月1日(火)・2日(水)・3日(木)・4日(金)・5日(土)・
15日(火)・24日(木)・25日(金)・30日(木)

講 師 第1期 横山光ノ介氏

第2期 神谷 紀雄氏

受講者数 第1期 35人

第2期 36人

内 容 経験者を対象として、信楽土を素材にかき落とし、象嵌、上絵付
などをはじめ粘土、ロクロ、窯詰め、施釉、焼成等について学習
した。



(6) 書芸講座

期 日 平成4年12月3日(木)・4日(金)・5日(土)

(3日間／うち講師指導日数は各3日間)

講 師 中村 象閣氏

受講者数 24人

内 容 経験者を対象として、漢字を中心に様々な表現について学習した。



(7) 金工講座

期 日 平成5年1月22日(金)・23日(土)・24日(日)・26日(火)・27日(水)・29日(金)・
30日(土)・31日(日)・2月2日(火)・3日(水)・4日(木)

(12日間／うち講師指導日数は8日間)

講 師 小林 正利氏

受講者数 20人

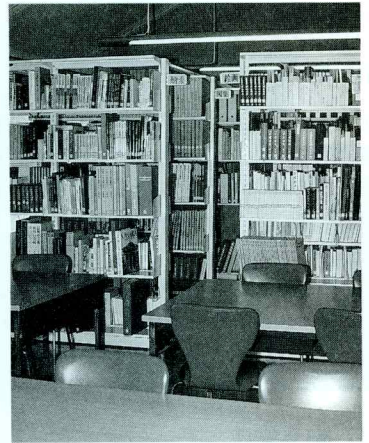
内 容 経験者を対象として、銅板のレリーフ制作を通し金工の基礎的技
法とより幅広い表現について学習した。



情報資料室

毎週火～金曜日（祝日・休館日を除く）12時30分～4時30分に開室し、県民の方々の美術情報資料（図書、雑誌、図録、新聞等）の利用に供した。また、特別展や企画展の開催に伴い、展覧会への一層の興味と理解を深めていただくため、関係図書類のコーナーを設けるなど時宜に併せた対応に努めた。さらに、各地の展覧会やイベントについて、資料室前のロビー等でポスター、チラシ、ポストカード、情報誌などにより美術情報提供を行った。

なお、4年度の情報資料室における収蔵図書については159冊を購入、111冊を受贈し、美術情報資料の充実を図った。



購 入

	書 名	刊 行 年	発 行 所	編 著 者 名
美術総記	日本美術資料総目録1988年度版美術・工芸	1988	朝 日 出 版 社	ホセ・アントニオ・デ・ウエルビノほか アドルフ・マイヤーほか 井 関 正 昭
	スカラ／みすず美術館シリーズ3～5巻	1990～91	み す ず 書 房	
	バウハウス叢書3・4・7・11巻	1991～92	中央公論美術出版	
	イタリアの近代美術	1989	小 沢 書 店	恵 光 院 白 編
	茨城の美と心	"	茨城新聞社	
	美術家索引 日本・東洋篇	1991	日外アソシエーツ	
	" 西洋篇	1992	"	"
	博物館の防虫対策手引き	1991	淡 交 社	L・A・ザイコルマン J・R・シュロック編
	秘蔵 日本美術大観7巻	1992	講 談 社	平山郁夫・小林忠編著
	アート・オークション・データブック1	"	日 経 B P 社	につけいあーと編
	全体人 河北倫明	"	芸 術 新 聞 社	河北倫明著 米倉守編
	美心游歴 河北倫明聞書	"	西 日 本 新 聞 社	山 本 康 雄
	アートミュージアム開発運営計画資料集	"	綜 合 ユ ニ コ ム	長 沼 修 二 編
	世界服飾文化史図鑑	1991	原 書 房	アルベール・ラシネ著 アイリーン・リベイロ編
	房総美術の往還	"	求 龍 堂	中 地 昭 男
	増補改訂 正倉院宝物北倉	1987	朝 日 新 聞 社	正倉院事務所編
	日本美術作品レファレンス事典 絵画篇（近現代）	1992	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ編
	昭和の文化遺産 第2・4～6巻	1990～91	ぎ ょ う せ い	井上 靖・河北倫明監修 新 集
	日本近代美術と西洋	1992	中央公論美術出版	明 治 美 術 学 会 編
	河北倫明美術時評集第3・5巻	"	思 文 閣 出 版	
	アール・ヌーヴォー	1990	美 術 出 版 社	ウィリアム・ハーディ
	世界の巨匠シリーズ別巻シュールレアリズム	1988	"	U・M・シュニーデ解説
	世界美術全集超ワイド版全18巻	1975～80	集 英 社	座右宝刊行会編
	福島近代美術	1992	三 好 企 画	村 山 鎮 雄
	日展・常展・新文展・資展全出品目録Ⅰ	1990	日 展	日展史編纂委員会編
	日展・常展・新文展・資展全出品目録Ⅱ	"	"	"
	日展・常展・新文展・資展出品歴史索引	"	"	"
	日展史 21・22巻	"	"	"
	宮城県美術館・建設をかえりみて	1982	東北設計サービス	佐 藤 康 雄 編
	シュールレアリスムという伝説	1992	み す ず 書 房	飯 島 耕 一
	シュールレアリスム読本 2～4巻	1981	思 潮 社	
	シュールレアリスム宣言	1989	学 芸 書 林	アンドレ・ブルトン著 巖 谷 國 士 訳
絵 画	画家今関啓司の日記	1991	求 龍 堂	画 家 今 関 啓 司 の 日 記 画 行 委 員 会 編

	書名	刊行年	発行所	編著者名
絵画	名画と出会う美術館 1～10巻	1991～92	小学館	
	画集・画文集全情報 45／90	1991	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ編
	竹久夢二写真館「女」	〃	新潮社	栗田勇編
	田淵俊夫画集	1992	求龍堂	
	秘蔵浮世絵大観 7・11巻	1988～90	講談社	桧崎宗重編
	夢二日記 全4巻	1987～91	筑摩書房	竹久夢二著 長田幹雄編
	象徴派の絵画	1992	朝日新聞社	中山公男・高階秀爾編著
	近代の絵画 美術全集作品ガイド	1993	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ編
	黒田清輝作品収蔵目録	1929	岩波書店	美術研究所編
	加藤東一画集	1992	岐阜新聞・岐阜放送	鈴木進監修 岐阜県美術館編集協力
	速水御舟	〃	学習研究社	河北倫明監修 河田善彦ほか編集
	ファン・エイク全作品	1980	中央公論社	前川誠一郎編集協力 日本アート・センター編集協力
	神坂雪佳画囊	1982	京都書院	
	風景画全集美しい日本1・5・7～10巻	1988	ぎょうせい	井上靖・河北倫明監修 新集社
	ドイツ近代絵画史	1991	岩崎美術社	ヘルバート・フォン・アイネム著 神林恒道・武藤三千夫共訳
	絵具材料ハンドブック	〃	中央公論美術出版	ホルベイン工業
	絵画の発見1・2・4～14・16～18巻	1991～93	学習研究社	竹内二郎編
	エブドメロス	1972	思潮社	ジョルジョ・デ・キリコ
	アート（現代世界の美術）17・デ・キリコ	1990	集英社	峯村敏明責編
	金山平三	1977	日動出版部	飛松實
彫刻	安田侃彫刻作品集	〃	日本経済新聞社	
	森へ行く日 舟越桂作品集	〃	求龍堂	
	藪内佐斗司作品集「大博物誌」	1991	〃	
	石井鶴三素描集 1・2巻	1992	形文社	
	佐藤忠良自選素描集 旅の走り描き	1980	現代美術社	
	佐藤忠良自選素描集 アトリエの中から	〃	〃	
	高村光太郎 人物書誌大系 8	1984	日外アソシエーツ	北川太一編
工芸	多田美波	1990	平凡社	
	高村豊周文集 I	1992	文治堂書店	
版画	評伝 柳宗悦	〃	筑摩書房	水尾比呂志
	浜口陽三自選作品集	1991	小学館	
	日本銅版画の研究 近世	1974	美術出版社	菅野陽
合冊復刻	日本の木版画	1992	千穂館	ジュリア・ハット著 高野瑤訳
	東錦東校近美	〃	ゆまに書房	青木茂監修
	京美会 美術学雑誌 1	〃	〃	〃
	美京友代会 美術学雑誌 2	1991	〃	〃
一般・参考図書	岩波仏教辞典	1992	岩波書店	中村元ほか編
	昭和ニュース事典 5・6巻	〃	毎日コミュニケーションズ	昭和ニュース事典編集委員会・ 毎日コミュニケーションズ編
	人間国宝（最新版）	1991	教育社	佐藤喜久雄編
	文化勲章（受賞者総覧1992年版）	1992	〃	〃
	新現代日本執筆者大事典第1～4巻	〃	日外アソシエーツ	紀田順一郎ほか編
	国立国会図書館蔵書目録 上・下巻	〃	国立国会図書館	国立国会図書館収集部編
	自然大博物館	〃	小学館	相賀昌宏編著
	世界全地図	〃	講談社	
	日本常民生活絵引 全5巻・索引	1991	平凡社	澁澤敬三 神奈川大学日本常民文化研究所編

受 贈

	書 名	刊 行 年	発 行 所	編 著 者 名
美術総記	キリスト教美術図典	1990	吉川弘文館	柳宗玄・中森義宗編
	日 動 画 廊 五 十 年 史	1977	日 動 画 廊	
	行 動 美 術 三 十 五 年 の 小 史	1980	行 動 美 術 協 会	向井潤吉・難波香久三編
	鏡 の 前 の 幻 想	1970	學 藝 書 林	坂 崎 乙 郎
	一 水 会 史 I	1983	一 水 会	池 辺 一 郎 ほか 編
	一 水 会 五 十 年 史	1988	中央公論美術出版	田 中 穰
	個 の 創 意	1983	形 象 社	米 倉 守
	私 の 中 の 原 風 景	1986	北 海 道 新 聞 社	北 海 道 新 聞 社 編
	明治・大正・昭和の仏画仏像1編 明治・大正・昭和の仏画仏像2編	1987	小 学 館	相 賀 徹 夫 編
	私 の つ れ づ れ 草	1984	広 論 社	広 論 社 出 版 局 編
	想 い 出 長 谷 川 仁	1978	日 動 画 廊	
	ギャラリール 1992	1992	ギャラリールシルバー企画	竹野美樹子、田中里美編
	日本美術全集22 西洋画と日本画（近代の美術Ⅱ）	〃	講 談 社	高 階 秀 爾 ほか 編
	長野県美術全集第2巻	〃	郷 土 出 版 社	仁科惇ほか編・執筆
	新編大室納本の美術第12巻 伴 大 納 本 の 言 語 絵 巻	1991	小 学 館	黒 田 泰 三
	続 これだけは見たい 日本の美術館88	1992	日本テレビ放送網	千 足 伸 行 監 修
	色 と 空 の 日 本 美 術	〃	里 文 出 版	瀬 木 慎 一
	ミ 松 登 北 の フ ァ ン タ ジ ー	〃	北 海 道 新 聞 社	北海道立近代美術館編
	和 尚 館 長 頑 張 る	1993	西 田 書 店	牧 田 喜 義
	身体の現在形 芸術はからだからだ	1992	愛知芸術文化センター	フォト・リーワード編
	日本美術院百年史三巻上・下	〃	日 本 美 術 院	日本美術院百年史 編 集 委 員 会 編
	現代画壇・美術記者の眼 1960-1980	1981	現 代 企 画 室	北 村 由 雄
	私の画廊 -現代美術とともに-	1982	佐 谷 画 廊 出 版 部	佐 谷 和 彦
	日本美術全集23 モダニズムと伝統（近代の美術Ⅲ）	1993	講 談 社	高階秀爾・浅野徹編著
絵 画	岡 鹿 之 助 画 集	1978	美 術 出 版 社	
	田 村 孝 之 介 画 集	1977	日 動 出 版 部	
	児 玉 幸 雄 水 彩 画 集	1990	求 龍 堂	
	平 野 遼 自 選 画 集	1977	小 学 館	
	斎藤三郎素描集 南スペイン	1970	大 日 本 絵 画	
	墨 雪 河 合 敏 雄 墨 絵 集	1985	日 貿 出 版 社	
	孤高の画家 大村長府	1978	奈 良 県 立 美 術 館	奈 良 県 立 美 術 館
	森 通 壁 画 集	1992	森 通	
	岡野浩二作品集 1964-1981	1982	岡 野 浩 二	
	藤 田 豊 作 品 集	1984	藤 田 豊	
	豊 田 一 男 蠟 画 集	1986	群馬ルネサンスフォーラム 豊田一雄蠟画集刊行委員会	
	作画三昧 -青邨文集-	1979	新 潮 社	
	梅原幸雄・栗原幸彦・西田俊英 1988-1992 Na.6-Na.10	1993	本 庄 俊 男	
	太 陽 の 絵 筆	1979	岩 崎 書 店	
	互 井 開 一 画 集	1966	三 彩 社	
	川 村 浩 章 画 集	1990	川 村 浩 章	
	天城画帖 西村愿定作品集	1988	伊 藤 春 秀	
	福 井 良 之 助 作 品 集	1968	美 術 出 版 社	此木三九男著 鳥影社編
	画 文 集 ア ト リ エ の 茶 郎	1986	ダ イ セ イ コ	
	さ ん も ん 劇 場	1983	近 代 文 藝 社	
	中 村 博 自 選 作 品 集	1984	中 村 博	
	久 里 洋 二 作 品 集	1991	求 龍 堂	

	書名	刊行年	発行所	編著者名
絵画	緑川廣太郎画集	1992	美術出版社	
	遠藤彰子画集	"	仁家出版部	小沼彰敏編
	古川通泰画集 1986-1992	"		古川通泰画集刊行会編
	森本仁平画集	"	森本仁平	
	野に生きる・されどその名は画家 -日本画家と高節の生涯-	"	晃洋書房	和高伸二
	山口豊専さしえ選集	"	野馬曳き文庫	石井良一編
	林功画集	"	求龍堂	
	新現代日本画家素描集 中島千波 桜花抄	"	日本放送出版協会	
	花咲くぶらり美術館と小布施の里	"	求龍堂	石田達彦編
	水仙の影	1993	京都新聞社	前川公秀
	平松礼二画集	1992	求龍堂	
	平山郁夫画集 桜蘭紀行	1990	朝日新聞社	
	原色日本水彩画集 '92	1992	日本水彩画会	
	澤田哲郎画集	"	澤田園子	中村光紀ほか編
	横溝洋画集	"	横溝洋顕彰会	和田徹, 中村一良編
	波の国から巡りくる	"	ビジョン企画出版社	平松礼二
	大分県先哲絵画書	"	大分県教育委員会	大分県文化庁管理部編
	" 著述篇	"	"	"
	" 書簡篇	"	"	"
	" 詩文篇	"	"	"
	二世フェーブル昆虫記	"	新潮社	久里洋二編
	久米桂一郎 -教え子による受贈作品集	"	久米美術館	
	美の人・学の人・久米桂一郎	"	"	神吉貞一
	秋元松子歌集 紅薔薇(べにそうび)	1984		
	樹々光彩	1992	日本経済新聞社	東山魁夷
	東山魁夷代表作選 日本の四季	"	読売新聞社	
	杉山寧素描聚成 I 全1巻2分冊	"	小学館	新集社プランニングセンター 編集協力
	片岡球子画集 全1巻2分冊	"	求龍堂	山梨俊夫編
	伊東郁三郎	1993	伊東郁三郎	
	吉田清志画集	"	求龍堂	
	アートトップ叢書: 同時代の画家集成 中島千波	"	芸術新聞社	若月敏明編
	須田国太郎画集	1992	京都新聞社	
	夢二書簡 全2巻	1991	岩波ブックサービスセンター	長田幹雄編
	田中穰のアート・ライブラリー	1992	芸術新聞社	田中穰
	東山魁夷と共	"	三宅策郎	
	日本画の百年	1966	三彩社	藤本韶三編
	斎藤博之作品集	1993	笛田舎	
	洋画の遺産	1992	マリア書房	マリア書房編
彫刻	清水多嘉示作品集	1974	光琳社出版	
	平櫛田中彫琢大成	1971	講談社	今泉篤男ほか
	砂澤ビッキ作品集	1989	用美社	針生一郎ほか解説
	石仏彫刻のすすめ	1976	日貿出版社	北川薫
	富永直樹彫刻作品	1982	実業之日本社	実業之日本事業出版部
	舟越保武	1988	ギャラリーせいほう	
	木喰仏のすべて	1980	誠文図書	猪飼重明著 木喰研究会編
	竹田光幸写真集	1990		
	朝倉彫塑館の記録	1986	朝倉彫塑館	朝倉彫塑館
	石井鶴三作品集	1992	礫山美術館	礫山美術館
	資料 高村光太郎の読書	"	北斗会	堀津省二編

活動協力

千葉県立美術館友の会

1. 目 的
- ”みる・かたる・つくる”という美術館活動に積極的に協力し、楽しい雰囲気の中で、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深める。
2. 組 織
- (1) 会員数
- 個人会員651人 賛助会員 1 人
- (2) 役 員
- 名誉会員 6 人 会長 1 人 副会長 3 人 監事 3 人 理事若干数
3. 事 業
- (1) 友の会だより”しおさい”の発行、年 4 回。各1000部印刷し、会員に配布した。
- (2) 第17回葉美会展の開催 会期／平成 4 年 8 月11日(火)～ 8 月16日(日) 出品者44人 展示点数74点
- (3) 秋の美術鑑賞の旅 美術品や文化財を訪ねながら、親睦も深めるために実施した。
- ①日 時
- 10月21日(水)
- ②行 先
- 成田市（航空科学博物館・千葉県立房総のむら）
佐倉市（佐倉順天堂記念館・川村記念美術館）
- ③参加者数
- 43人
- (4) 館事業への協力
- 館に協力して、特別展等の図録販売・実技講座の開催のほか、講演会など県民アトリエ事業に積極的に参加した。
- (5) そ の 他
- テレホンカード・絵葉書・額縁・額絵・図書等の販売
4. 平成 4 年度 友の会実技講座

講 座 名	期 日	日 数	受講者数	講 師
洋 画 入 門 講 座 (1)	5 月 26・27・28・29・30・31 日 (火) (水) (木) (金) (土) (日)	6	35	根 岸 茂 行
” (2)	6 月 6・11・13・18・20・21 日 (土) (木) (土) (木) (土) (日)	”	”	熊 谷 文 利
” (3)	6 月 23・24・25・26・27・28 日 (火) (水) (木) (金) (土) (日)	”	31	関 和 彌
” (4)	2 月 18・19・20・21・22・23 日 (火) (水) (木) (金) (土) (日)	”	33	戸 田 健 夫
” (5)	9 月 8・9・10・11・12・13 日 (火) (水) (木) (金) (土) (日)	”	22	小 林 数
” (6)	2 月 9・10・11・12・13・14 日 (火) (水) (木) (金) (土) (日)	”	33	関 和 彌
日 本 画 入 門 講 座	11 月 17・18・19・20・21・22 日 (火) (水) (木) (金) (土) (日)	”	23	斎 藤 惇
デッサン入門講座(1)	9 月 22・23・24・25 日 (火) (水) (木) (金)	4	32	根 岸 茂 行
” (2)	1 月 19・20・21・22 日 (火) (水) (木) (金)	”	34	松 沢 茂 雄

博物館実習

- 学芸員資格取得希望の学生を下記のとおり受け入れた。
- 平成 4 年 7 月 27 日～ 8 月 1 日
- 共立女子大学 1 人、学習院大学 1 人、跡見学園女子大学 2 人、女子美術大学 1 人、聖徳大学 2 人、大阪芸術大学 1 人、実践女子大学 2 人、東京学芸大学 1 人、白梅学園短期大学 1 人、道都大学 1 人 （計 13人）

そ の 他

- 平成 4 年 5 月 21 日～ 6 月 7 日 千葉日報に特別展「アンリ・ルソーとナイーフ美術展」開催に伴う原稿提供。10回連載。
- 9 月 4 日～ 9 月 11 日 読売新聞に特別展「竹久夢二展」開催に伴う原稿提供。7 回連載。
- 9 月 9 日～ 9 月 23 日 千葉日報に特別展「竹久夢二展」開催に伴う原稿提供。10回連載。

資料貸出一覧

作家名	作 品 名	出 陳 展 覧 会 名	会 期 ・ 展 示 会 場	貸 出 先
澤部清五郎 " " " .	ハドソン河の朝靄 パ リ 風 景 婦 人 像 桜	「 澤 部 清 五 郎 展 」	4.4.10～5.5 京都府京都文化博物館 4.5.23～6.28 目黒区美術館	京都府京都文化博物館 目 黒 区 美 術 館
石井柏亭 " 大下藤次郎 河合新蔵 中林 儼 真野紀太郎	舟 に 居 る 人 舞 姫 久 々 子 湖 竹 林 図 け し の 花 パ ラ	「 80 周 年 記 念 日 本 水 彩 展 」	4.6.1～6.10 東京都美術館	日 本 水 彩 画 会
浅井 忠 石川欽一郎 " 五百城文哉 石井柏亭	平壤大同江煉光亭 水 辺 赤 城 淡 煙 日 光 病 児	「 石 川 欽 一 郎 展 」	4.8.1～9.6 静岡県立美術館	静 岡 県 立 美 術 館
原 勝 郎	モンマルトル	「 都 市 風 景 の 発 見 — 近代の一視点・描かれた都市」展	4.9.12～10.18 茨城県近代美術館	茨 城 県 近 代 美 術 館
石井柏亭 椿 貞雄 中西利雄	晩 春 行 楽 図 岩 人 物	「 昭 和 初 期 の 洋 画 展 」	4.8.14～10.6 東京都庭園美術館	東 京 都 庭 園 美 術 館
大久保作次郎 " " .	ヤ ッ ホ ー お 茶 ど き 風	「 ゆ か り の 巨 匠 展 」	4.9.12～9.27 岸和田市立文化会館	岸 和 田 市
石井林馨 " .	桃 源 漁 樵	「 日 本 近 代 洋 画 の 旗 手 たち 」 展	4.10.8～10.20 東京・日本橋高島屋本店 4.10.22～11.3 神奈川・横浜高島屋 4.11.5～11.17 大阪・なんば高島屋	日本美術院・朝日新聞社
富取風堂 " " " " " " " " " " " .	游 鯉 (其一) " (其二) 朝 光 斜陽(夏すがた其一) " (夏すがた其二) 葛 西 風 景 厩 舎 秋 の 草 ス ケ ッ チ " " .	「 富 取 風 堂 展 」	4.10.9～10.18 市川市文化会館	市 川 市 教 育 委 員 会
宮之原 謙	象 嵌 磁 鉢	「 現 代 陶 芸 の 系 譜 」	4.10.10～11.15 姫路市立美術館	姫 路 市 立 美 術 館
小宮山 俊 " " .	白 い 嶺 赤 い 空 ・ 雪 稜 沙 羅 の 樹 の 下	「 小 宮 山 俊 」 展	4.10.20～10.25 東京セントラル美術館	込 山 俊 男
今関啓司	浅 春 山 路	「 今 関 啓 司 展 」	4.11.1～11.30 長南町郷土資料館	長 南 町 郷 土 資 料 館
千代倉桜舟	宗 左 近 の 詩	「 千 代 倉 桜 舟 書 展 」	4.11.2～11.8 木更津市民会館	木 更 津 市
米林雄一	CIRCLE AND TRIANGLE	「 板 橋 の 現 況 — 清 塚 紀 子 米 林 雄 一 展 」	4.11.27～5.1.7 板橋区立美術館	板 橋 区 立 美 術 館
富取風堂 " .	花 籠 駅 路	「 院 展 95 年 の 流 れ 展 」	5.1.3～1.12 広島・広島市福屋 5.1.15～2.1 徳島・徳島市そごう	共同通信社・中国新聞社 " ・徳島新聞社

調査・収集事業

当館の学芸員等が行っている従来の調査研究事業に加え、本年度は、客員研究員4名を委嘱し、その指導助言等の協力を得て、美術館活動の内容充実を図った。

資料収集については、日本画4点、洋画28点、彫刻1点、工芸34点、書7点、版画26点、研究資料1点を新たに収蔵した。

その他、基金により浜口陽三の版画など35点を取得した。

収蔵資料

日 本 画

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	浅井 忠	農耕の図	1902～7	紙・着彩	126.7×30.4	購入
2	楳取 魚彦	登龍門		〃	81.7×32.2	保管換
3	田村 宗立	白衣観音	1900	〃	160.8×74.8	購入
4	三谷 十糸子	魚紋	1988	〃	220.0×137.0	寄附

洋 画

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	浅井 忠	房州白浜	1886	紙・鉛筆	21.6×36.3	保管換
2	麻生 蓉子	出を待つ	1978	キャンバス・油彩	129.3×160.5	購入
3	石井 光楓	ブルタニユーにて	1931	〃	80.5×100.3	寄附
4	〃	タコマ	1925	紙・水彩	30.6×48.3	購入
5	〃	アーブル市・場末		〃	35.4×51.5	〃
6	〃	荷揚げ		〃	39.0×56.5	〃
7	石井 柏亭	冬の朝(行徳)	1909	キャンバス・油彩	45.3×63.5	〃
8	伊藤 順一	里	1992	キャンバス・絵具	181.8×227.3	〃
9	王 軍	蘇州水郷	〃	キャンバス・油彩	112.0×162.0	〃
10	近藤 南海子	グレーの冬	〃	キャンバス・絵具	227.0×181.8	〃
11	櫻田 精一	追憶	1974	キャンバス・油彩	182.0×227.0	寄附
12	〃	白い舟	1985	〃	145.5×112.2	購入
13	佐 善 明	ソフィステケートな出合い	1970	〃	205.0×180.0	寄附
14	〃	エルパソの居留区	1980	〃	180.0×180.0	〃
15	〃	サンフランシスコ昼下り	1987	〃	〃	〃
16	〃	シーサイドアベニュー	1979	〃	〃	〃
17	〃	New York Letter	1984	〃	〃	〃
18	チャールズ・ワーグマン	七里ヶ浜風景		〃	20.6×43.0	寄附
19	椿 貞雄	夏の風景	1928	〃	30.6×45.5	購入
20	時田 幸彦	犬吠	1991	〃	60.0×73.0	〃
21	行木 正義	コンポジション B	1952	〃	130.2×194.0	〃
22	〃	作品 G	1975	キャンバス・絵具	249.2×418.6	寄附
23	〃	作品 81	1981	〃	219.5×293.8	〃
24	〃	空間 志向	1989	〃	226.8×364.0	〃
25	〃	空間 吟詠	1990	〃	〃	〃
26	畠 中 陽一	アルミネーションー光の誘惑ー	〃	キャンバス・絵具	163.0×194.0	購入
27	藤井 外喜雄	シヤルトル	1975	キャンバス・油彩	144.0×110.0	寄附
28	〃	自画像	1919	〃	40.3×31.2	〃

彫 刻

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	長谷川 昂	朝	1979	木 彫	83.0×55.0×34.3	購入

工 芸

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	秋 山 逸 生	蝶 貝 象 嵌 小 箱	1902～7	象 嵌	縦11.7×横11.7×高6.3	保 管 換
2	浅 井 忠 (図案)	草 花 盆		漆 芸	縦32.8×横32.8×高3.0	購 入
3	"	桔 梗 文 花 瓶		陶 芸	径7.0×高3.6	"
4	"	イ ン カ 文 湯 呑		"	径7.0×高5.8	"
5	川 上 祥 三 郎	黄 釉 彫 文 花 器	1961	"	高53.2×口径45.6	"
6	河 村 蜻 山	長 方 皿 雨・風・晴	1987	"	(各)縦29.0×横41.0× 高4.3 (三枚組)	寄 附
7	高 村 豊 周	青 銅 花 入		鑄 金	高44.0×口径18.4	購 入
8	信 田 洋	夕 映 の 甲 斐 の 山 々		彫 金	高14.2×口径21.0	"
9	宮 之 原 謙	彩 地 盛 連 葉 文 壺	1955	陶 芸	径30.2×高30.7	"
10	山 室 百 世	鑄 銅 草 花 置 物	1933	鑄 金	高41.0×幅17.0	寄 附
11	"	黄 銅 線 條 文 花 瓶	1936	"	高42.0×幅16.5	"
12	"	鑄 銅 東 亜 の 光 置 物	1939	"	高54.0×幅17.0	"
13	"	鑄 銅 萌 ゆ る 力 置 物	1940	"	高72.0×幅22.0	"
14	"	鑄 銅 進 駐 置 物	1944	"	高60.0×幅46.0	"
15	"	鑄 銀 小 鳥 の さ さ や き	1943	"	高35.0×幅36.0	"
16	"	鑄 銅 朝 陽 (パ ネ ル)	1951	"	高60.0×幅88.0	"
17	"	鑄 銅 月 明 に 善 を 聞 く	1952	"	高76.0×幅122.0	"
18	"	鑄 銅 想 念 置 物	1953	"	高44.0×幅30.0	"
19	"	鑄 銅 芽 花 瓶	1955	"	高54.0×幅32.0	"
20	"	鑄 銅 第 三 の 指 向 花 器	1958	"	高43.0×幅29.0	"
21	"	鑄 銅 遍 路 置 物	1961	"	高39.0×幅33.0	"
22	"	臘 銀 粧 え る 鳥 置 物	1964	"	高36.0×幅24.0	"
23	"	臘 銀 月 明 置 物	"	"	高44.0×幅34.0	"
24	"	青 銅 花 挿	"	"	高45.0×幅19.0	"
25	"	鑄 銅 花 瓶	"	"	高45.0×幅13.0	"
26	横 山 朝 陽	草 花 文 搔 落 花 瓶	1987	陶 芸	高23.9×口径32.5	購 入
27	"	草 花 紋 搔 落 皿		"	径53.3×高2.1	寄 附
28	"	草 花 紋 線 文 鉢		"	径22.5×高6.0	"
29	"	牡 丹 紋 搔 落 壺		"	径20.2×高8.4	"
30	"	花 鳥 紋 四 方 水 指		"	幅4.9×奥行4.9×高6.8	"
31	"	伊 羅 保 茶 盤		"	径12.5×高6.0	"
32	"	唐 津 皮 鯨 平 茶 盤		"	径15.7×高5.8	"
33	"	御 本 手 茶 盤		"	径13.5×高7.4	"
34	"	白 釉 割 高 台 茶 盤		"	径12.2×高7.2	"

書

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	小 川 瓦 木	叙 情	1959	紙 ・ 墨	135.1×272.8	寄 附
2	"	侃 の イ メ - ジ	1963	キャンバス・墨	115.5×89.3	"
3	"	了 々	1988	紙 ・ 墨	124.8×92.0	"
4	高 澤 南 総	春 風 秋 月	1981	"	107.4×76.7×4 面	購 入
5	"	藝 に 游 ぶ	1980	"	70.0×271.3	寄 附
6	"	墨 縁	1987	"	73.0×152.3	"
7	"	龍 虎	1988	"	228.3×80.0	"

版 画

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	川 瀬 巴 水	房 州 太 海	1925	紙 ・ 木 版	36.1×23.8	保 管 換
2	〃	市 川 の 晩 秋	1930	〃	36.2×24.0	〃
3	深 沢 幸 雄	刻 印	1964	紙 ・ 銅 板	59.8×36.5	購 入
4	〃	古 い 楽 譜 (記号)	1965	〃	58.2×36.5	〃
5	〃	土 と 火 の 祝 祭	1966	〃	59.4×35.8	〃
6	〃	青 い 扉	〃	〃	42.6×43.0	〃
7	〃	失 わ れ た 像	1967	〃	60.0×36.4	〃
8	〃	扉の向こうとこちらの人	〃	〃	56.9×36.5	〃
9	〃	指 の 間 の 記 憶 B	1970	〃	74.0×49.8	〃
10	〃	黎 明 の ヴ ィ ー ナ ス	1971	〃	70.0×50.0	〃
11	〃	窓	1972	〃	73.2×49.2	〃
12	〃	星 の 門	〃	〃	74.8×49.8	〃
13	〃	凍れる歩廊(ベーリング海峡)	1978	〃	49.5×74.5	〃
14	〃	り ん ご の 夜 A	〃	〃	36.5×53.0	〃
15	〃	湾 頭 に 開 く 花	1979	〃	75.0×49.8	〃
16	〃	アシェンダの地下にて	1980	〃	75.0×48.5	〃
17	〃	異 次 元 よ り の 使 者	1981	〃	53.8×36.0	〃
18	〃	鏡 の 前 の 人 (2)	1983	〃	39.8×55.8	〃
19	〃	酒 場 に て	〃	〃	36.0×69.3	〃
20	〃	陸 橋 の 上 を 歩 く 人	1984	〃	49.6×36.0	〃
21	〃	照 れ て い る 人	〃	〃	74.4×49.6	〃
22	〃	寂 し い 訪 問 者	1988	〃	74.5×49.6	〃
23	〃	顔 は 迷 路	〃	〃	36.2×69.4	〃
24	〃	樹	1990	〃	59.5×36.1	〃
25	〃	長 い 飛 行 機 の 旅	1991	〃	74.5×49.7	〃
26	〃	誇 り 高 き 男	1992	〃	74.2×49.3	〃

研究資料

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	浅 井 忠	流 鏑 馬		水 彩	26.8×18.9	保 管 換

千葉県美術品等取得基金購入一覧

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	種 別
1	岸 田 劉 生	霽 れ た る 冬 之 日	1917	キ ャ ン バ ス ・ 彩	54.7×59.0	洋 画
2	浜 口 陽 三	3 つ の ポ プ ラ	1980	紙 ・ 銅 版	62.5×47.5	版 画
3	〃	西 瓜	1981	〃	24.0×55.0	〃
4	〃	緑 の 毛 糸	〃	〃	8.0×12.0	〃
5	〃	赤 い 蝶	〃	〃	6.0×4.0	〃
6	〃	ロ ビ ー ナ の さ く ら ん ぼ	〃	〃	8.0×6.0	〃
7	〃	〃 (7枚組)	〃	〃	各8.0×6.0	〃
8	〃	〃 (15枚組)	〃	〃	〃	〃
9	〃	く る み	1982	〃	9.0×9.0	〃
10	〃	び ん と レ モ ン	1983	〃	62.5×47.5	〃
11	〃	青 い 蝶	1982	〃	5.0×5.0	〃
12	〃	〃 (7枚組)	〃	〃	各5.0×5.0	〃
13	〃	〃 (15枚組)	〃	〃	〃	〃
14	〃	て ん と う 虫	1984	〃	6.0×4.0	〃

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	種別
15	浜口陽三	てんとう虫(7枚組)	1984	紙・銅版	各6.0×4.0	版画
16	"	"(15枚組)	"	"	"	"
17	"	野	1985	"	24.0×55.0	"
18	"	編み棒	"	"	"	"
19	"	3匹の蝶	"	"	11.0×11.0	"
20	"	"(7枚組)	"	"	各11.0×11.0	"
21	"	"(15枚組)	"	"	"	"
22	"	カリフォルニア・チェリー	1987	"	4.0×4.0	"
23	"	"(7枚組)	"	"	各4.0×4.0	"
24	"	"(15枚組)	"	"	"	"
25	"	22のさくらんぼ	1988	"	54.6×23.8	"
26	"	マントリック・ミュージックⅠ (22のさくらんぼ15枚組)	"	"	各54.6×23.8	"
27	"	Ⅱ (22のさくらんぼ7枚組)	"	"	"	"
28	"	黄色い編み棒	1985～89	"	24.0×55.0	"
29	"	緑のポプラ	"	"	62.5×47.5	"
30	"	緑のさくらんぼ	1981～89	"	8.0×6.0	"
31	"	びんとレモンと赤い壁	"	"	62.5×47.0	"
32	"	暗い背景のびんと黄色いレモン	"	"	62.5×47.5	"
33	"	琥珀色のくるみ	1982～89	"	9.0×9.0	"
34	"	青いくるみ	"	"	"	"
35	"	青紫色の蝶	"	"	5.0×5.0	"

収蔵資料数一覧

(平成5年3月31日現在)

種別	区分	購入	寄附	保管換	合計
日本画		104	132	25	261
洋画		306	356	40	702
彫刻		76	24	10	110
工芸		106	70	10	186
書		27	56	14	97
版画		124	49	5	178
合計		743	687	104	1,534
研究資料		243	1,216	53	1,512

客員研究

●松浦あき子(日本美術院百年史編纂室主幹)

日本画家、富取風堂の本館収蔵作品、資料、スケッチ、模写等で年代不詳の作品について指導を受けた。また、富取風堂の初期の院展出品作品リストの作成を依頼し、風堂の日本画の位置と画風の変遷についても関係文献の紹介や指導を受けた。

●宮之原初子(故宮之原謙夫人)

陶芸家、宮之原謙の本館収蔵作品についての研究指導を受けた。特に、壁面照明作品「銀河」再現のための調査上のアドバイスを受けたほか、作風の変遷に関する指導も受けた。

●香取忠彦(美術評論家)

金工家、香取秀真の本館収蔵作品についての指導を受けた。特に、秀真の調査ノートについての研究上のアドバイスを受けたほか、秀真の作風の変遷に関する指導も受けた。

●井関正昭(美術評論家)

フォンタネージの本館収蔵作品で年代不詳の作品について指導を受けた。また、画風の変遷についての紹介や、イタリアの近・現代美術の全般的な流れとその特徴についての指導を受けた。

管 理 運 営

本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし「みる・か
たる・つくる」をモットーとして、総合的、かつ動的な美の広場を
目標として展示・普及活動を行っている。

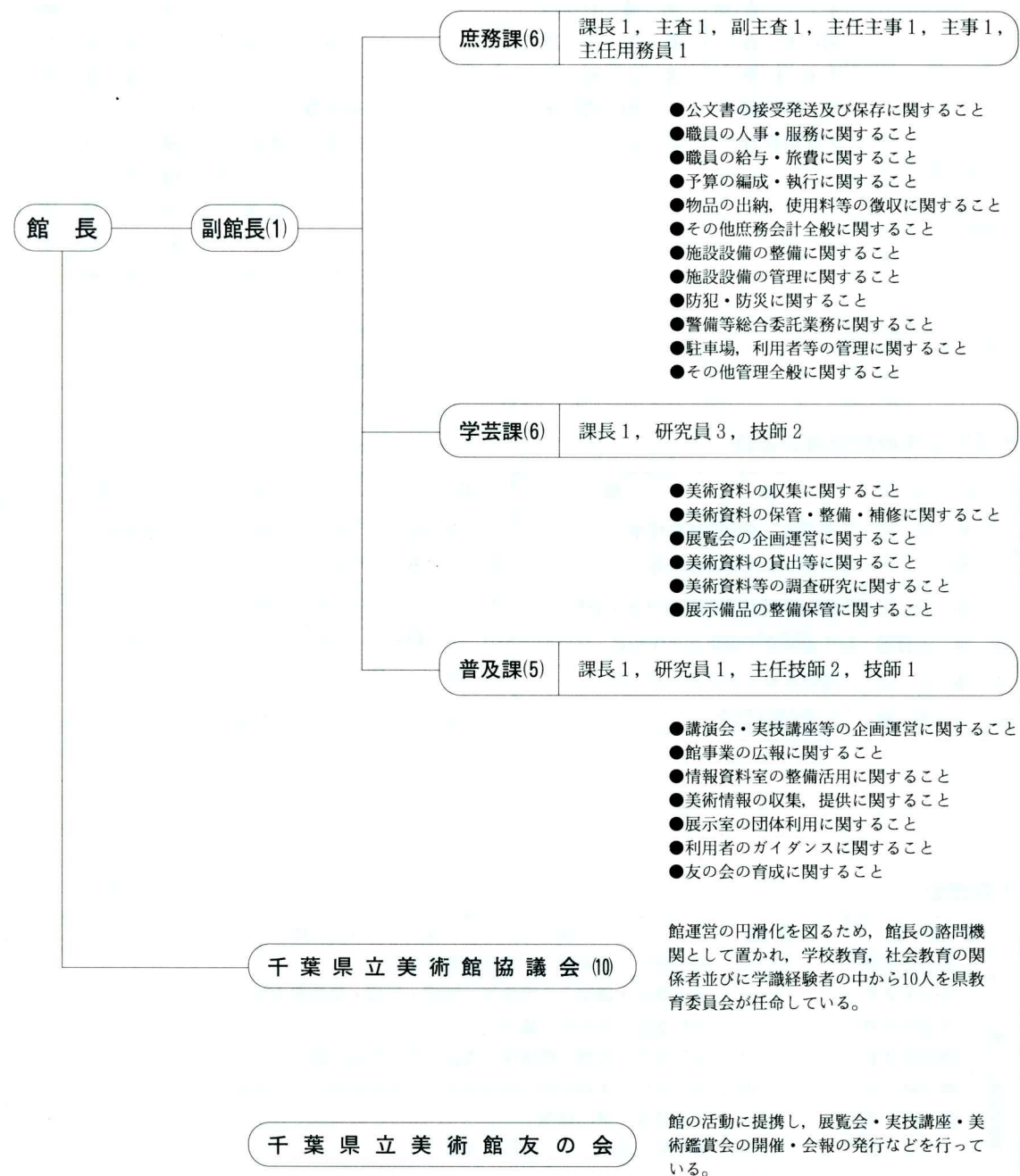
協議会では、美術館の運営について協議した。

運 営 方 針

- 県民のための美術館として、明るい親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽し
く学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術
館。
- 房総の地にかかわりのある美術家の作品と、関係資料の収集と研
究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・
つくる活動を総合的に展開する美術館。

機 構

組織及び事務分掌（5.3.31現在）



職 員

館 長 福 田 誠
副 館 長 小 池 賢 博
庶務課
庶 務 課 長 所 甚 一
主 査(派) 加 藤 貞美治
副 主 査(〃) 葛 生 久 雄
主 任 主 事(〃) 渡 辺 和 子
主 事(〃) 安 西 寿 子
主任用務員(〃) 長 島 則 子

学芸課

学 芸 課 長 米 田 耕 司
研 究 員(派) 大久保 守
〃 (〃) 前 川 公 秀
〃 (〃) 津 田 昇
技 師(〃) 中 松 彰 久
〃 (〃) 三 浦 拓 郎

普及課

普 及 課 長 藤 川 正 司
研 究 員(派) 高 橋 正 夫
主 任 技 師(〃) 金 田 雅 成
〃 (〃) 相 川 順 子
技 師(〃) 矢 野 綾 子

千葉県立美術館協議会委員

氏 名	役 職	氏 名	役 職
石 崎 朋 夫	千葉県経営者協会専務理事	戸 田 禎 祐	東京大学東洋文化研究所教授
岩 崎 吉 一 (4. 7. 1~)	東京国立近代美術館次長	富 山 秀 男 (~4. 6. 30)	東京国立近代美術館次長
垣 畑 利 光	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長	長谷川 昂	千葉県美術会長
齋 藤 志貴雄	前千葉県立千葉東高等学校長	山 下 頼 光 (4. 7. 1~)	日本放送協会千葉放送局長
佐 藤 信 夫	千葉県教育研究会造形部会長	吉 田 稔 (~4. 6. 30)	〃
新 城 瑠 璃	ネスコ(株)取締役副社長 (千葉県立美術館友の会副会長)	若 桑 みどり	千葉大学教養部教授

予算概要

(単位：千円)

事 業 名	予 算 額	事 業 概 要
運 営 費	展示事業費 40,244	特別展 2, 企画展 3, 常設収蔵作品展
	普及事業費 3,108	実技講座・講演会の実施等, 館報・年報・事業案内等の発行
	調査研究費 1,177	資料調査, 研究員会議等
	維持管理費 166,181	施設管理, 設備・機械保守委託, その他運営費
施 設 設 備 費	備品購入費 55,000	美術資料, 美術図書, 展示用備品, 視聴覚備品, 図書備品等
	委 託 費 5,700	作品修復, 備品修復
	工 事 費 8,274	展示室空調用ポンプ改修工事等
合 計	279,684	

注) 。職員の人件費・財団普及事業費は含まない。 。別に資料購入のため基金20億円。

利用状況

入館者数一覧

種別 月	開館 日数	個人			団体						人数合計	備考
		一般成人	大・高生	中・小生	一般成人		大・高生		中・小生			
					人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数		
4	26	7,499	366	1,097	348	11	0	0	93	2	9,403	
5	28	16,201	793	2,686	319	9	0	0	84	1	20,083	特別展 「アンリ・ル ソーとナイ ーフ美術展」
6	26	12,217	940	2,706	568	15	74	2	239	5	16,744	
7	27	8,245	367	1,788	513	12	0	0	121	3	11,034	
8	27	8,592	791	1,533	89	3	0	0	0	0	11,005	
9	26	27,567	1,678	3,983	1,076	24	146	4	0	0	34,450	特別展 「竹久夢 二展」
10	27	20,706	689	6,365	1,152	30	0	0	291	5	29,203	
11	25	8,930	638	1,588	696	14	30	1	237	4	12,119	
12	21	9,164	351	5,450	73	3	0	0	191	4	15,229	
1	24	9,168	429	1,976	313	11	0	0	0	0	11,886	
2	24	9,696	585	2,293	303	10	48	1	403	3	13,328	
3	24	9,200	520	1,301	625	11	0	0	0	0	11,646	
計	305	147,185	8,147	32,766	6,075	153	298	8	1,659	27	196,130	

開館以来 総開館日数 5,346日 総入館者数 3,112,181人

地域別入館者数

種別 月	開館 日数	県内		県外		外国
		千葉市	その他	東京都	その他	
4	26	4,090	4,148	425	567	173
5	28	9,079	9,266	728	905	105
6	26	7,944	7,499	655	609	37
7	27	4,302	5,788	439	406	99
8	27	4,386	5,173	588	812	46
9	26	15,410	17,173	807	905	155
10	27	17,118	10,744	573	632	136
11	25	4,409	6,278	399	975	58
12	21	3,156	11,341	316	387	29
1	24	5,776	5,144	410	534	22
2	24	6,022	5,992	468	804	42
3	24	5,734	4,768	375	732	37
計	305	87,426	93,314	6,183	8,268	939

展示室利用団体

太字は県芸術フェスティバル事業

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 点 数
1	第29回全日本総合書道大覧覧会	4 / 7 ~ 12	書	1,070
2	第 16 回 鳳 聲 会 書 作 展	4 / 14 ~ 19	〃	107
3	第 62 回 郷 陽 会 展	〃	洋 画	137
4	第 6 回 ガラス絵コクリコ会展	〃	ガ ラ ス 絵	83
5	第 10 回 日 中 友 好 書 道 展	4 / 21 ~ 26	書	9,500
6	第18回武蔵野美術大学校友会千葉県支部展	4 / 28 ~ 5 / 4	洋 画	46
7	第 19 回 千 葉 新 協 展	4 / 28 ~ 5 / 3	〃	84
8	第12回千葉美術工芸展	4 / 28 ~ 5 / 10	工 芸	75
9	第 18 回 歩 会 彫 刻 展	〃	彫 刻	62
10	第 23 回 表 美 展	5 / 5 ~ 10	表 装 ・ 額 装 ・ 屏 風	127
11	第 16 回 墨 の 県 展	5 / 12 ~ 17	水 墨 画 ・ 日 本 画	376
12	第33回千葉市アマチュア美術会展	5 / 19 ~ 24	絵画・書・彫刻・版画・工芸・デザイン	743
13	第 19 回 千 虹 会 日 本 画 展	5 / 19 ~ 31	日 本 画	31
14	第 37 回 二 科 会 千 葉 支 部 展	5 / 26 ~ 31	洋 画	1,035
15	第 39 回 千 葉 県 書 道 協 会 展	6 / 2 ~ 7	書	432
16	第 18 回 貌 展	〃	洋画・彫刻・工芸・写真	67
17	第15回新槐樹社千葉県支部展	6 / 9 ~ 15	洋 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸	55
18	第 15 回 千 葉 一 陽 展	〃	洋 画	141
19	千 葉 水 彩 展	〃	〃	77
20	千 葉 幼 児 絵 画 展	〃	絵 画	1,350
21	第 17 回 関 東 全 展	6 / 17 ~ 21	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 工 芸	203
22	第 7 回 日 本 画 四 季 展	6 / 17 ~ 28	日 本 画	86

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 数
23	第20回記念水彩連盟千葉支部展	6 / 23~28	洋 画	63
24	千 葉 二 紀 展	"	"	80
25	第36回千葉県小中学校書写展	6 / 30~7 / 5	書	1,150
26	第10回明日を拓く教育美術展	"	児 童 画	2,500
27	精 鋭 展	"	洋 画	80
28	第24回千葉市水墨画同好会連合会展	7 / 7~19	水 墨 画	444
29	第78回習美会初夏展	7 / 21~26	日本画・洋画・水墨画	173
30	第9回千葉中美展	"	日 本 画 ・ 洋 画	47
31	第26回漱雲会全国書道展	"	書	763
32	第21回写真千葉県展	7 / 21~8 / 2	写 真	1,195
33	第13回龍峽書道会千葉展	7 / 28~8 / 2	書	605
34	日本水彩画会第8回千葉県支部展	"	洋 画	68
35	第30回新世紀美術協会千葉支部展	8 / 4~9	"	67
36	第17回葉美会展	8 / 11~16	日 本 画 ・ 洋 画	74
37	太平洋美術会千葉支部展	"	洋 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸	123
38	千葉県市町村職員共済組合文化展	"	日本画・洋画・書・写真	91
39	千葉県高校芸術祭第25回合同写真展	8 / 18~23	写 真	389
40	第6回白亜会千葉支部展	"	洋 画	31
41	第22回いてふ会彫刻展	8 / 18~30	彫 刻	41
42	第12回日本春秋書院千葉県書道連盟展	8 / 25~30	書	160
43	第20回千葉市教職員美術展	"	洋画・彫刻・書・その他	208
44	第一美術協会千葉県支部展	"	洋 画 ・ 工 芸	63
45	第32回白扇書道会展	9 / 1~6	書	8,791

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 点 数
46	第 24 回 フ ァ ン シ ー 洋 画 展	9 / 8 ~ 13	洋 画	89
47	第 22 回 新 構 造 千 葉 支 部 展	"	洋 画 ・ 写 真	126
48	第 15 回 千 葉 等 迦 会 展	9 / 15 ~ 20	洋 画	45
49	第 24 回 千 葉 現 展	"	洋 画 ・ 工 芸	110
50	第 15 回 千 葉 県 写 真 展	9 / 15 ~ 27	写 真	497
51	第 42 回 デ ザ イ ン フェスタ CHIBA	9 / 22 ~ 27	デ ザ イ ン	53
52	第 39 回 千 葉 県 勤 労 者 美 術 展	"	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 書 ・ 写 真	226
53	第 8 回 日 本 書 道 学 会 千 葉 県 連 展	"	書	259
54	第 35 回 千 葉 市 小 中 養 護 学 校 児 童 生 徒 総 合 展	9 / 29 ~ 10 / 4	絵 画 ・ 彫 刻 ・ 工 作 ・ そ の 他	4,752
55	第 3 回 千 葉 県 教 育 芸 術 祭	10 / 6 ~ 11	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 工 芸 ・ 書 ・ そ の 他	265
56	第 12 回 二 科 会 写 真 部 千 葉 支 部 展	"	写 真	105
57	第 44 回 千 葉 県 美 術 展 覧 会 （ 県 展 ）	10 / 17 ~ 11 / 8	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸 ・ 書	3,022
58	千 葉 県 高 校 芸 術 祭 「 美 術 ・ 工 芸 ・ 書 道 作 品 展 」	11 / 11 ~ 23	絵 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸 ・ 書 ・ デ ザ イ ン ・ そ の 他	1,674
59	第 4 回 千 字 会 書 展	11 / 25 ~ 29	書	84
60	第 19 回 文 化 書 道 連 合 会 公 募 展	"	"	779
61	ダ ネ ラ 展	"	工 芸	50
62	日 中 青 少 年 書 法 交 流 展	"	書	1,432
63	第 37 回 こ ど も 県 展	12 / 1 ~ 13	絵 画	11,964
64	今 日 の 美 術 を 考 え る 会 展	12 / 15 ~ 24	立 体 ・ そ の 他	38
65	第 10 回 明 る い 社 会 づ くり ポ ス タ ー コ ン ク ル 展	"	ポ ス タ ー	1,220
66	登 龍 社 ・ 宮 坂 会 書 初 展	1 / 5 ~ 10	書	374
67	富 士 百 景 写 真 展	1 / 12 ~ 17	写 真	102
68	第 4 回 日 本 童 謡 の 書 展	"	書	2,622

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 数
69	第 20 回 千 葉 書 壇 秀 拔 ・ 新 進 展	1 / 19~24	〃	497
70	第26回千葉県老人クラブ会員作品展	〃	絵画・彫刻・工芸・書・写真・その他	333
71	千葉大学教育学部美術科卒業制作展	1 / 26~31	洋 画 ・ 彫 刻 ・ デ ザ イ ン	52
72	第 26 回 千 葉 大 学 学 生 書 道 展	〃	書	105
73	第 10 回 千 葉 県 医 師 会 美 術 展	〃	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 工 芸	86
74	第35回千葉市小中養護学校児童生徒書写展	〃	書	1,400
75	千葉市観光絵画と写真コンクール作品展	2 / 2~7	洋 画 ・ 写 真	196
76	第 8 回 書 星 選 抜 展	〃	書	266
77	第 45 回 千 葉 県 小 中 高 校 書 初 展	〃	〃	817
78	群 鴿 書 人 展	2 / 9~14	〃	47
79	第 18 回 子 ど も 造 形 展	〃	洋画・工芸・デザイン・その他	1,050
80	幕張北高校書道卒業制作展	〃	書	65
81	第 16 回 唱 和 会 書 展	2 / 16~21	〃	97
82	第 18 回 千 葉 県 民 写 真 展	2 / 16~28	写 真	350
83	和 洋 女 子 大 学 卒 業 展	2 / 23~28	書	63
84	第 22 回 千 葉 県 大 学 美 術 連 盟 展	〃	日本画・洋画・デザイン・工芸	89
85	第 24 回 千 葉 市 民 美 術 展	3 / 2~21	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・ デ ザ イ ン ・ 写 真	1,176
86	第 40 回 書 星 教 育 部 展	3 / 23~28	書	1,066

施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下媒塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイル-先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、珪器質タイルを型枠代にしてコンクリートを一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚みにしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2,400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2,400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施行時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m~2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランプを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防ぎ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが、調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、中性能フィルター、脱臭フィルター、の3種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はCAV（定風量型）+VAV（可変風量型）方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常

に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。VAV方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示室の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収の亚克力拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80,000lx以上、30%の時間が50,000lx以上、50%の時間が25,000lx（平均）以上、90%の時間が5,000lx以上という測定値がありまた水平面照度にしても50,000lx（薄暗）から5,000lx（曇天）の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン（これは、計算値により鉛直面照度60,000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した）にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による透過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル（透過率53.6%）と黒地のジョーゼット（透過率35%）の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

<設計及び工事監理者>

大高建築設計事務所

<施工者>

建築：㈱竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業㈱

衛生＝第一管工事㈱

電気＝関東電気工事㈱

備品：天童木工，山口木工，佐々木ブラインド

＜都市計画地域指定＞

用途地域：準工業地域

＜規模・面積＞

敷地面積 33,057.87㎡

建築面積 8,777.94㎡

延床面積 10,663.57㎡

展示棟 6,343.02㎡

管理棟 2,818.89㎡

県民アトリエ棟 1,501.66㎡

駐車台数 97台

＜工期及び建設経費＞

(1) 第1期工事（展示棟）5,194.59㎡

（建築面積5,102.35㎡）

○工期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775,967千円

本体工事 425,230千円

電気設備工事 79,663千円

空調設備工事 166,493千円

給排水衛生設備工事 28,995千円

外溝工事 67,705千円

ガス工事 7,881千円

(2) 第2期工事（管理棟）2,274.60㎡

（建築面積1,089.50㎡）

○工期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453,800千円

本体工事 307,500千円

電気設備工事 30,000千円

空調設備工事 79,000千円

給排水衛生設備工事 19,514千円

外構工事 17,786千円

(3) 第3期工事（県民アトリエ）1,501.66㎡

（建築面積1,449.34㎡）

○工期 昭和54年3月22日～昭和55年2月29日

工事費 370,000千円

本体工事 265,300千円

電気設備工事 35,000千円

空調設備工事 56,200千円

給排水衛生設備工事 13,500千円

○工期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8,000千円

外構工事 8,000千円

(4) 第4期工事（第8展示室1,148.43㎡・

収蔵庫544.29㎡）1,692.72㎡

（建築面積1,136.75㎡）

○工期 昭和62年7月11日～昭和63年8月31日

工事費 747,500千円

本体工事 476,000千円

電気設備工事 81,000千円

空調設備工事 171,000千円

給排水衛生設備工事 19,500千円

総工事費 2,355,267千円

工期別面積一覧

（単位：㎡）

区分	地階	1階	2階	塔屋	合計
第1期	322.80	4,753.03	61.00	57.76	5,194.59
第2期	—	1,185.10	1,089.50	—	2,274.60
第3期	—	1,403.15	98.51	—	1,501.66
第4期	15.46	1,132.97	544.29	—	1,692.72
合計	338.26	8,474.25	1,793.30	57.76	10,663.57

＜概要＞

建物

【階数】

地下1階，地上2階，塔屋1階建

【高さ】

基礎底：GL-5.00m

高さ：GL+15.20m

【構造】

主体構造：鉄筋コンクリート造

屋根：鉄骨造

主鋼材：SS41及び高張力鋼

コンクリートの種類

A種・普通コンクリート（基礎・地中梁・1階
スラブ） $F_c = 210\text{kg}/\text{cm}^2$

B種・軽量コンクリート（梁・スラブ用・地上
部） $F_c = 300\text{kg}/\text{cm}^2$

C種・軽量コンクリート（地上部躯体でAB以
外の梁・壁など） $F_c = 240\text{kg}/\text{cm}^2$

【外部仕上げ】

外壁：珧器質タイル，一部コンクリート打放し

屋根：勾配屋根＝アスファルトルーフィングシート，天然
スレート3枚葺

陸屋根＝アスファルト防水，押えコンクリート，
豆砂利打込み

開口部：オーダーメイド自然発色サッシュ，一部型钢グ
ラファイト処理サッシュ

【内部仕上げ】

展示室：床＝ビニールホモジニアスタイル

床＝自然石（北木島御影）円盤摺および本磨（第
7室）置敷きタイルカーペット（第8室）

壁＝石綿珪酸カルシウム，板下地クロス張り，
塗装仕上げ

壁＝コンクリート砕り仕上げ（第7室）

天井＝岩綿吸音板，塗装仕上げ

天井高＝3,240～13,500mm

事務室：床＝ビニールホモジニアスタイル

壁＝プラスター塗装仕上げ

天井＝岩綿吸音板塗装仕上げ

天井高＝3,400mm

収蔵庫：床＝フローリングブロック

壁・天井＝米杉(第1・2室)桐(第3・4室)
 天井高＝3,400mm
 講堂：床＝置敷カーペット
 壁＝マコレ練付け
 天井＝クロス張り

第1・第2アトリエ：
 床＝ビニールアスベストタイル
 壁＝コンクリート打塗装仕上げ
 天井＝軟質石綿板

研修室：床＝ビニールアスベストタイル
 壁＝クロス張り
 天井＝岩綿吸音板

和 室：床＝玄晶石水磨き，タタミ，桧家甲板
 壁＝京じゅらく塗
 天井＝杉柂ベニヤ目透シ，竿縁天井

設備

【電気設備】

受電方式：交流 3相3線式6,000V 50Hz
 電話交換方式：64回線デジタル交換機方式

【空調設備】

展示棟＝CAV(定風量型)＋VAV(可変風量型)方式

管理棟＝VAV方式

保管庫＝露点再熱制御方式

県民アトリエ棟＝各室ハンドリング方式

熱源：空気熱源スクリュウ熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給水：ポンプ圧送方式，引込み管径75mm

排水：汚水・雑排水合流方式系統(管径300)，雨水系統(管径300)別，公設本管へ放流

【防災設備】

排煙方式：自然排煙，機械排煙(第1，2，7展示室)

消化方式：屋外・屋内消火栓，不燃性ガス消火設備
(ハロゲン1301)

自家発電：ディーゼル機関直結交流発電機，定格出力100kVA

火災報知設備：P型1級自動火災報知設備

【その他の設備】

防犯設備：I T Vカメラ設備，防犯警報装置

昇降機設備：荷物用エレベーター

規模：容量3,000kg，カゴ内法＝3,000mm×3,000mm×3,000mm，速度30m/min

展示棟

玄関ホール	102.40㎡	身障者用便所	7.92㎡
クローク	91.80㎡	コントロール室	20.16㎡
倉庫A	2.70㎡	フィルター室	28.92㎡
〃B	〃	工作室	31.00㎡
第1展示室	437.76㎡	発電機室	25.00㎡
〃2	400.32㎡	電気室	123.20㎡
〃3	469.08㎡	ポンプ室	76.80㎡
〃4	403.20㎡	機械室	305.20㎡
〃5	824.19㎡	機械室(新)	283.82㎡
〃6	330.58㎡	高架水槽室	11.46㎡
〃7	566.56㎡	E.V機械室	27.28㎡
〃8	864.61㎡	E.V廻り	54.56㎡
食堂	119.52㎡	ダクトスペース	35.68㎡
厨房	36.00㎡	廊下等	123.48㎡
従業員控室	17.28㎡		
食堂ホール	49.20㎡	合計①	6,343.02㎡
ミュージアムショップ	12.00㎡		
ロビー	335.52㎡		
第1休憩室	23.04㎡		
〃2	〃		
〃3	〃		
便所A	30.24㎡		
〃B	23.76㎡		

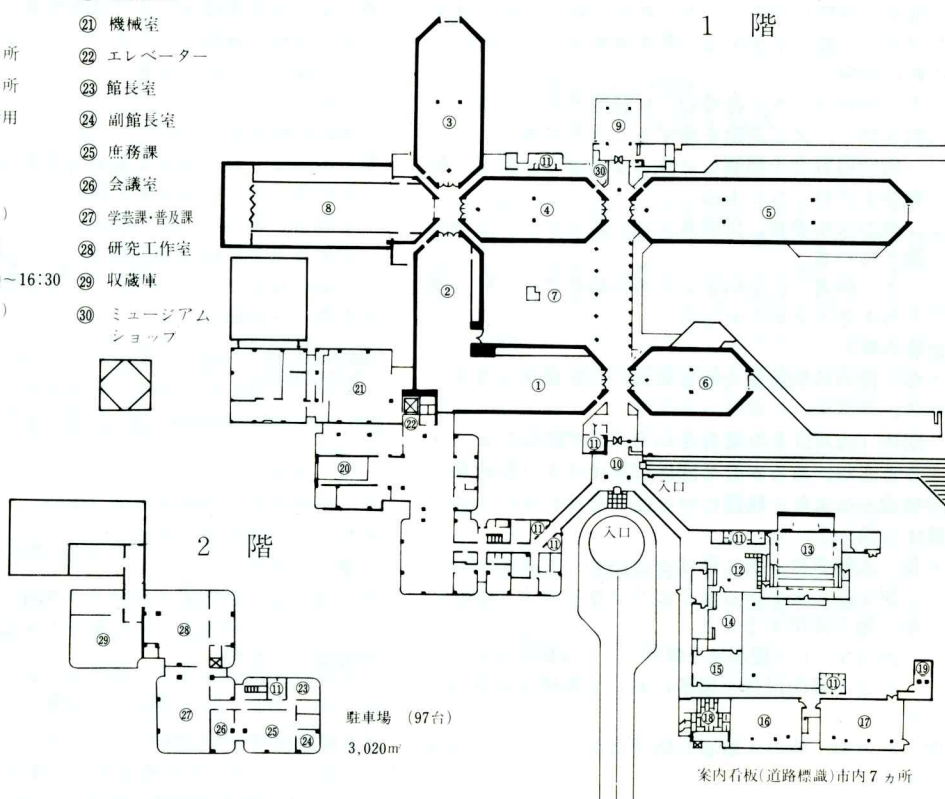
管理棟

(1階)	
第2会議室	22.62㎡
更衣室	14.83㎡
医務室	21.18㎡
書庫	22.02㎡
警備員室	43.59㎡
第1会議室	20.15㎡
倉庫	7.19㎡
湯沸室	5.19㎡
便所	24.54㎡
宿直室	34.20㎡
物置	9.92㎡
用務員室	31.83㎡
審査室・資料室	520.68㎡
準備室・荷解室	
消毒室	31.79㎡
資料倉庫	124.25㎡
荷解梱包保管室	52.67㎡
荷扱人室	21.94㎡
機械室	51.74㎡
廊下等	123.52㎡
小計	1,183.85㎡

(2階)				便 所		21.50㎡	ホ ー ル 側 便 所		29.97㎡
館 長 室	33.27㎡	湯 沸 室 A	3.24㎡	情 報 資 料 室		172.77㎡	情 報 資 料 室 倉 庫		4.70㎡
副 館 長 室	23.42㎡	廊 下 等	60.94㎡	事 務 室		22.76㎡	研 修 室		74.70㎡
第 1 応 接 室	14.67㎡	ダクトスペースその他	3.56㎡	研 修 室 倉 庫		4.23㎡	第 1 ア ト リ エ		155.70㎡
“ 2 “	14.55㎡	小 計	1,635.04㎡	“ 2 “		184.31㎡	“ 3 “		95.47㎡
庶 務 課 室	112.34㎡	合 計 ②	2,818.89㎡	ア ト リ エ 側 便 所		20.77㎡	荷 解 室		25.65㎡
会 議 室	43.84㎡	* 展 示 室 総 面 積	4,296.30㎡	窯 場 倉 庫		6.66㎡	ホ ー ル そ の 他		352.67㎡
学 芸 課・普 及 課 室	195.32㎡	* 収 蔵 庫 総 面 積	771.50㎡	合 計 ③		1,501.66㎡	総 合 計		10,663.57㎡
学 芸 相 談 室	23.91㎡	県民アトリエ		(①+②+③)					
研 究 工 作 室	216.49㎡	1 F 機 械 室	25.92㎡	講 堂 倉 庫		8.64㎡			
写 真 ス タ ジ オ	54.30㎡	講 堂	259.24㎡	コ ン ト ロ ー ル 室		30.33㎡			
器 材 室	6.74㎡								
暗 室	12.19㎡								
第 1 収 蔵 室	184.40㎡								
“ 2 “	42.81㎡								
“ 3 “	544.29㎡								
E . V 前 室	16.39㎡								

内 容

- ①～⑧ 展示室
- ⑨ 食堂(44席)
- ⑩ 玄関ホール
- ⑪ トイレ
- 男子用6カ所
- 女子用6カ所
- 身体障害者用2カ所
- ⑫ ホール
- ⑬ 講堂(200人)
- ⑭ 情報資料室
- 火～金 12:30～16:30
- ⑮ 研修室(40人)
- ⑯～⑱ 実技室
- ⑲ 窯 場
- ⑳ 搬出入口
- ㉑ 機械室
- ㉒ エレベーター
- ㉓ 館長室
- ㉔ 副館長室
- ㉕ 庶務課
- ㉖ 会議室
- ㉗ 学芸課・普及課
- ㉘ 研究工作室
- ㉙ 収蔵庫
- ㉚ ミュージアムショップ



関係法令等

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）
- 二 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- 三 年始休館日 1月1日から1月4日まで
- 四 年末休館日 12月26日から12月31日まで
- 五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することがある。

(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 特別展覧会を観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しないもの
- 二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者
- 三 でい酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えたと認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第2号様式）により、館長に申し込まなければならない。

(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。
- 二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。
- 三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食をすること。
- 四 その他、他の入館者の妨げになるような行為をすること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは

備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

(趣旨)

第1条 県が徴収する使用料および手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

(使用料等の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中略)

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

別表第一（抜粋）

財産又は事務の種類	手数料	区 分	単 位	額
博 物 館	入館料	特 別 展 覧 会	1人1回につき	510 円 以 内

(以下省略)

3. 使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

(徴収の特例)

第7条の2 条例第8条の2の規程による規則で定めるものは、別表第六のとおりとする。

別表第六（抜粋）

行 事 等	施 設
県民の日（6月15日）。 65歳以上の者、身体障害者（介護者を含む。）又は精神薄弱者が使用する場合。	博物館

平成5年度主要事業

企画展

常設収蔵作品展

I 期 4月1日(木)～7月11日(日)

II 期 7月17日(土)～10月11日(月)

III 期 12月4日(土)～平成6年3月27日(日)

本館が収蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の中から、年間を3期にわけて各テーマ等に基づき展覧するほか、新たに収蔵された作品を紹介します。(準備等のため開催されない期間や、開催期間中の展示替があります。)

秋山逸生展 房総の美術家シリーズ (23)

11月20日(土)～12月24日(金)

房総の美術家シリーズは、房総生まれ、あるいは定住して、近代日本美術界において活躍し、美術振興のために貢献した美術家の再発見と顕彰をめざしています。

今年度は、東京生まれ、戦前から市川市に在住し、「木象嵌」の重要無形文化財保持者(人間国宝)で、日本伝統工芸展などを舞台に活躍した秋山逸生(1901～1988)に焦点をあて、回顧します。

第6回現代日本具象彫刻展

平成6年2月5日(土)～2月27日(日)

平成3年度第5回展に引き続き、「21世紀への飛躍」を主題として、具象系彫刻作品を全国公募し、入賞・入選作品を展覧するとともに、現代彫刻の動向の一端を紹介します。

第17回千葉県移動美術館

睦沢ゆうあい館 11月17日(木)～11月30日(火)

山田町公民館 12月3日(金)～12月16日(木)

優れた美術作品を、より多くの県民の方々に鑑賞していただくため、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各分野から館収蔵作品を中心に巡回展を開催します。

特別展

デ・キリコ展

6月5日(土)～7月11日(日)

イタリア人を両親としてギリシャに生まれたジョルジョ・デ・キリコ(1888～1978)は、アテネの美術学校に学んだ後、ミュンヘンで過ごし、ベックリンなどの画風に影響されて、幻想的な画風に向かいました。その後、キリコは、パリに出てピカソらと交わり、キュビズムにも接しましたが、やがて、従来の絵画には見られない神秘的・夢幻的な絵画世界を築き上げました。幾何学的な形態、関連のない事物の組み合わせ、独特な遠近法など、反自然主義的な技法を駆使し、新鮮なイメージを漂わせたその画風は、後のシュールレアリスム絵画などの発展に大きな影響を与えました。

本展では、キリコの作品を展覧し、その独自の世界を探るとともに、20世紀美術に果たした業績について再確認します。

ミレーと浅井忠の出会い ーバルビゾン派と日本

9月4日(土)～10月11日(月)

19世紀の半ばに、パリ近郊のフォンテンブローの森の一隅にある小村バルビゾンに集まり、自然や農村風景を描いた画家の一群をバルビゾン派といいます。バルビゾン派の作品については、明治9年に工部美術学校の教授として来日したフォンタネージをはじめ、その後も、展覧会や画集等を通じて様々な形で紹介されました。そして、その芸術の影響は、美術界はもとより、文学、思想など多方面に及びました。

本展は、主として「日本に将来されたバルビゾン派作品」「バルビゾン派受容に関わる日本洋画家の作品」をテーマに、ミレー、コローなどのバルビゾン派の作品や、浅井忠、黒田清輝などの日本洋画家の作品などを展覧し、バルビゾン派とわが国近代洋画との結びつきを浮き彫りにします。

講演会 特別展，企画展に関連し，年5回開催

実技講座

No.	講座名	開設日時 (12:30~16:30)	日数	定員	講師
1	日本画講座	5月18日(火), 19日(水), 21日(金), 22日(土), 23日(日), 25日(火), 26日(水), 27日(木), 29日(土), 30日(日), 6月1日(火), 2日(水)	12 (8)	20	斉藤 惇
2	洋画講座 (1) (水彩)	7月23日(金), 24日(土), 25日(日), 28日(水), 29日(木), 30日(金), 31日(土), 8月3日(火), 4日(水), 5日(木)	10 (7)	30	戸田 健夫
3	洋画講座 (2) (油彩)	11月11日(木), 12日(金), 17日(水), 18日(木), 19日(金), 20日(土), 21日(日), 23日(火), 24日(水), 25日(木)	10 (7)	30	松沢 茂雄
4	版画講座	6月15日(火), 16日(水), 17日(木), 19日(土), 20日(日), 22日(火), 23日(水), 25日(金), 26日(土), 27日(日), 29日(火), 30日(水)	12 (7)	20	増田 陽一
5	彫刻講座	10月19日(火), 20日(水), 21日(木), 22日(金), 23日(土), 24日(日), 26日(火), 27日(水), 29日(金), 30日(土), 31日(日), 11月2日(火)	12 (8)	15	渋谷 三朗
6	陶芸講座 (1)	6月8日(火), 9日(水), 10日(木), 11日(土), 12日(日), 13日(日), 7月1日(木), 7日(水), 21日(水)	9 (6)	30	鎗田 和平
7	陶芸講座 (2)	11月9日(火), 10日(水), 11日(木), 12日(金), 13日(土), 14日(日), 12月3日(水), 8日(水), 16日(水)	9 (6)	30	神谷 紀雄
8	金工講座	1月25日(火), 26日(水), 27日(木), 28日(金), 29日(土), 2月1日(火), 2日(水), 3日(木), 5日(土), 6日(日), 8日(火), 9日(水)	12 (8)	15	小林 正利
9	書芸講座	11月30日(火), 12月1日(水), 2日(木)	3 (3)	25	中村 象閣

() は講師の指導日数

平成5年度職員

館 長 白石 竹 雄
副 館 長 小 池 賢 博

庶務課

庶務課長 所 甚 一
副 主 査(派) 葛 生 久 雄
主 任 主 事(〃) 渡 辺 和 子
主 事(〃) 安 西 寿 子
主任用務員(〃) 長 島 則 子

学芸課

主任学芸員 米 田 耕 司
(兼)学芸課長
研 究 員(派) 大久保 守
〃 (〃) 前 川 公 秀
〃 (〃) 津 田 昇
技 師(〃) 中 松 彰 久
〃 (〃) 三 浦 拓 郎

普及課

普及課長 藤 川 正 司
研 究 員(派) 高 橋 正 夫
主 任 技 師(〃) 金 田 雅 成
〃 (〃) 相 川 順 子
技 師(〃) 矢 野 綾 子

利用案内

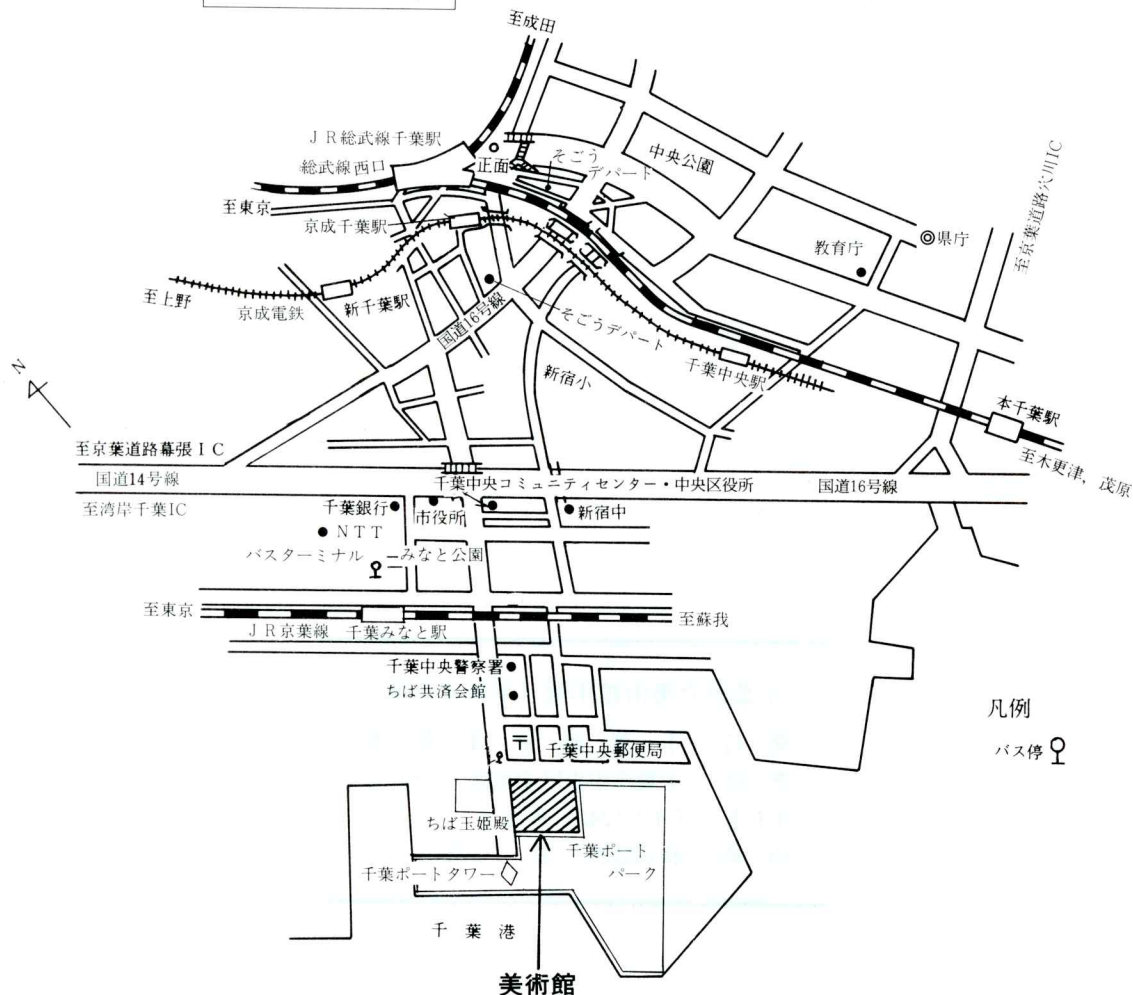
開館時間

- 開館時間 午前9時から午後4時30分まで
- 休館日
- ・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
 - ・年末年始（12月26日～1月4日）
 - ・展示替え等のため、必要があるとき。
- 観覧料
- ・無料（ただし、特別展は有料）
- 団体観覧
- ・団体で来館されるとき、あらかじめ御連絡いただければ館の概要や事業等のガイダンスをいたします。

交通

- ★JR 総武線千葉駅下車
 - 徒歩23分。
 - バス⑩番（千葉そごう前）のりばから「千葉ポートタワー」行にて15分、「県立美術館前」下車，徒歩1分。
- ★JR 京葉線千葉みなと駅下車，徒歩8分。

案内図



千葉県立美術館年報（平成4年度）

発行 千葉県立美術館

〒260 千葉市中央区中央港1-10-1

TEL 043 (242) 8 3 1 1

印刷 株式会社 正文社

